

0001 1-1 コンピュータシステム > ハードウェア | 難易度：基礎

同一の命令セットを実行する二つのCPUを比較する。CPU Aはクロック周波数2 GHz、平均CPIが1.0、CPU Bはクロック周波数3 GHz、平均CPIが2.0である。同じ命令数を実行するとき、CPU実行時間について最も適切なものはどれか。

ア：CPU Aの方が短い。

イ：CPU Bの方が短い。

ウ：両者は同じである。

エ：命令数が同じならクロック周波数やCPIは実行時間に影響しない。

答え・解説 正答：ア

ア：実行時間は概ね「命令数×CPI÷クロック周波数」で比較できる。Aは1/2、Bは2/3に比例するためAの方が短い。

イ：クロック周波数だけを比較するとBが速く見えるが、CPIが大きいため総合するとAより遅い。

ウ：Aの1.0/2とBの2.0/3は等しくない。

エ：クロック周波数とCPIはいずれもCPU実行時間の主要因である。

総合解説：CPU性能はクロック周波数だけでは判断できない。命令数、CPI、クロック周期を併せて評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0002 1-1 コンピュータシステム > ハードウェア | 難易度：標準

CPUキャッシュのヒット率を高めやすいプログラムの特徴として、最も適切なものはどれか。

ア：毎回、主記憶全体から無作為なアドレスだけを1回ずつ参照する。

イ：短時間に同じデータや近接するアドレスのデータを繰り返し参照する。

ウ：全てのデータ参照の直前にキャッシュを明示的に無効化する。

エ：データ配置に関係なく、キャッシュ容量より十分大きい領域を一度だけ順不同で読む。

答え・解説 正答：イ

ア：参照の局所性が弱く、キャッシュヒット率を高めにくい。

イ：時間的局所性と空間的局所性を利用できるため、キャッシュに残っているデータへ再アクセスしやすい。

ウ：キャッシュ内容を破棄するためヒット率は下がる。

エ：再利用性が低く、時間的局所性を利用しにくい。

総合解説：キャッシュは参照の局所性を利用して平均メモリアクセス時間を短縮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0003 1-1 コンピュータシステム > ハードウェア | 難易度：基礎

一般的な記憶階層について、CPUに近い順として最も適切なものはどれか。

ア：主記憶 → レジスタ → 補助記憶 → キャッシュメモリ

イ：補助記憶 → 主記憶 → キャッシュメモリ → レジスタ

ウ：レジスタ → キャッシュメモリ → 主記憶 → 補助記憶

エ：キャッシュメモリ → 補助記憶 → レジスタ → 主記憶

答え・解説 正答：ウ

ア：レジスタとキャッシュは主記憶よりCPUに近い。

イ：CPUから遠い順に近く、設問の順序とは逆である。

ウ：一般にCPUに近いほど高速・小容量・高価で、遠いほど低速・大容量となる。

エ：補助記憶をレジスタよりCPUに近く配置する一般的な階層ではない。

総合解説：記憶階層は速度・容量・コストのトレードオフを利用してシステム全体の性能を高める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0004 1-1 コンピュータシステム > ハードウェア | 難易度：標準

DMA（Direct Memory Access）の説明として、最も適切なものはどれか。

ア：CPUの命令セットを動的に書き換える仕組みである。

イ：補助記憶の内容を必ず暗号化して保存する仕組みである。

ウ：複数CPU間でキャッシュ内容を完全に同一にするためだけの方式である。

エ：I/O装置と主記憶の間のデータ転送を、CPUが1語ずつ転送する負担を減らして行う仕組みである。

答え・解説 正答：エ

ア：DMAは命令セットの変更機構ではなく、主に入出力データ転送に関する機構である。

イ：暗号化はDMAの目的ではない。

ウ：これはキャッシュコヒーレンシに関する説明で、DMAとは異なる。

エ：DMAコントローラ等が転送を担うことで、CPUは転送中に他の処理を行いやすくなる。

総合解説：DMAは大量のI/O転送時にCPUの介在を減らし、システム効率を高める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0005 1-1 コンピュータシステム > ハードウェア | 難易度：応用

ある処理時間のうち80%を理想的に並列化でき、残り20%は並列化できない。並列部分を無限個のプロセッサで実行できると仮定したとき、理論上の最大高速化率として最も近いものはどれか。

ア：5倍

イ：1.25倍

ウ：10倍

エ：プロセッサ数を増やせば上限なく高速化できる。

答え・解説 正答：ア

ア：Amdahlの法則では、並列化できない割合0.2が下限となるため、最大高速化率は $1/0.2=5$ 倍である。イ：80%が並列化できることから $1/0.8$ とするのは誤りである。

ウ：逐次部分20%が残るため10倍には到達できない。

エ：逐次部分が存在する限り高速化率には上限がある。

総合解説：並列化の効果は、並列化不能部分によって上限が決まる。データベース処理の並列化でも同じ考え方が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0006 1-1 コンピュータシステム > ハードウェア | 難易度：標準

サーバでECCメモリを採用する主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア：CPUのクロック周波数を自動的に倍増させる。

イ：メモリ上のビット誤りを検出し、方式によっては訂正して信頼性を高める。

ウ：SSDの書き込み回数を無制限にする。

エ：ネットワークのパケット損失を再送なしで補償する。

答え・解説 正答：イ

ア：ECCはメモリの誤り制御技術であり、CPUクロックを倍増させるものではない。

イ：ECCはError Correcting Codeを利用し、一時的なビット反転などに対する検出・訂正能力を持つ。

ウ：フラッシュメモリの書き込み寿命とは別の問題である。

エ：ネットワーク通信の誤り制御ではなく、主記憶の信頼性向上が目的である。

総合解説：高可用性が求められるサーバでは、CPUだけでなくメモリのエラー耐性も重要な設計要素となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0007 1-1 コンピュータシステム > ハードウェア | 難易度：基礎

SSDをHDDと比較した一般的な特徴として、最も適切なものはどれか。

ア：必ずHDDより大容量で単価も低い。

イ：電源断時には必ず全データが消失する。

ウ：機械的なシーク動作がなく、ランダムアクセスの待ち時間を短くしやすい。

エ：ランダムアクセスでは必ずHDDより遅い。

答え・解説 正答：ウ

ア：容量単価や最大容量は製品・時期で変わり、SSDが常に優位とは限らない。

イ：一般的なSSDは不揮発性フラッシュメモリを用い、電源断で全データが消えるわけではない。

ウ：SSDは半導体メモリを利用するため、磁気ディスクのヘッド移動に相当する機械的シークがない。

エ：一般には機械的シークがないSSDの方がランダムアクセスに有利である。

総合解説：補助記憶の選定では、容量、レイテンシ、IOPS、耐久性、コストなどを総合評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0008 1-1 コンピュータシステム > ハードウェア | 難易度：標準

ストレージコントローラのライトバックキャッシュについて、最も適切な説明はどれか。

ア：全ての書込みを媒体へ反映してから完了応答するので、常にライトスルーより高速である。

イ：読み専用方式なので書き込み性能には影響しない。

ウ：電源障害の影響を一切受けないため、保護機構は不要である。

エ：書き込み完了をホストへ返した後にキャッシュから媒体へ書き出すため高速化できるが、保護されていない揮発性キャッシュでは電源障害時に未反映データを失う可能性がある。

答え・解説 正答：エ

ア：これはライトスルーに近い説明であり、ライトバックの特徴ではない。

イ：ライトバックは書き込みキャッシュ方式である。

ウ：揮発性キャッシュでは未反映データ消失の危険がある。

エ：ライトバックは性能向上に有効だが、バッテリーや不揮発性キャッシュなどで未書き込みデータを保護する設計が重要である。

総合解説：性能と耐障害性のトレードオフを理解し、キャッシュ保護方式まで含めて評価する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0009 1-1 コンピュータシステム > ハードウェア | 難易度：応用

CPU使用率が高くないにもかかわらず、大量データを逐次走査する処理の性能がCPUコア数を増やしてもほとんど向上しない。メモリ帯域は既に上限近くに達している。この状況の説明として最も適切なものはどれか。

ア：処理はメモリ帯域がボトルネックであり、CPUコアを追加しても主な制約が解消されない。

イ：CPUコア数を倍にすれば、必ず処理時間も半分になる。

ウ：メモリ帯域はCPU性能と無関係なので調査対象から外すべきである。

エ：CPU使用率が100%未満なら、システムにボトルネックは存在しない。

答え・解説 正答：ア

ア：ボトルネックがメモリ転送能力にある場合、演算資源だけを増やしても性能向上は限定的である。

イ：性能は最も厳しい資源制約に左右されるため、比例して高速化するとは限らない。

ウ：大規模データ処理ではメモリ帯域が性能を制約することがある。

エ：I/O、メモリ、ロックなどCPU以外のボトルネックがあり得る。

総合解説：性能問題ではCPU使用率だけでなく、メモリ帯域、ストレージI/O、ネットワーク、待機時間を含めてボトルネックを特定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0010 1-1 コンピュータシステム > ハードウェア | 難易度：標準

TLB（Translation Lookaside Buffer）の役割として、最も適切なものはどれか。

ア：ディスク上のファイルを暗号化する専用領域である。

イ：仮想アドレスから物理アドレスへの変換結果を高速に参照するために保持する。

ウ：TCPの再送待ちパケットを保持するネットワークバッファである。

エ：CPU命令の実行結果だけを永続保存する補助記憶である。

答え・解説 正答：イ

ア：TLBは暗号化領域ではない。

イ：TLBはページテーブルの参照結果をキャッシュし、アドレス変換の平均時間を短縮する。

ウ：ネットワーク機構ではなく、仮想記憶のアドレス変換に関係する。

エ：TLBは永続記憶ではなく高速な変換キャッシュである。

総合解説：TLBミスが増えるとページテーブル参照が増え、メモリアクセス性能に影響する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0011 1-1 コンピュータシステム > OS・仮想化 | 難易度：基礎

一般的なOSにおけるスレッドの説明として、最も適切なものはどれか。

- ア：各スレッドは必ず別々の物理メモリ装置を占有する。
- イ：スレッドはOSが管理する実行単位ではなく、必ずハードウェアだけで管理される。
- ウ：同一プロセス内のスレッドは、通常、そのプロセスのアドレス空間などの資源を共有する。
- エ：同一プロセス内でも、スレッド同士は共有データに一切アクセスできない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：スレッドごとに専用の物理メモリ装置が必要なわけではない。
 - イ：OSはスレッドをスケジューリング対象として管理できる。
 - ウ：スレッドは実行の単位であり、同一プロセス内ではコードやデータなどを共有しやすい。
 - エ：同一プロセス内のスレッドは通常アドレス空間を共有する。
- 総合解説：共有資源を持つためスレッド間通信は効率的だが、競合状態を避ける同期制御が重要になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0012 1-1 コンピュータシステム > OS・仮想化 | 難易度：標準

タイムクォンタムを用いるラウンドロビン方式について、最も適切な説明はどれか。

- ア：最短実行時間のプロセスだけを最後まで実行する方式である。
- イ：一度CPUを得たプロセスは終了するまで絶対に切り替えない。
- ウ：優先度が同じなら必ず同時に複数プロセスを一つのCPUコアで実行する。
- エ：実行可能なプロセスに一定時間ずつCPUを割り当て、時間切れで次のプロセスへ切り替える。

答え・解説 正答：エ

- ア：これはSJFに近く、ラウンドロビンではない。
 - イ：ラウンドロビンはタイムクォンタムで切り替える。
 - ウ：一つのCPUコアでは通常ある瞬間に一つのスレッドを実行し、切替えによって並行性を実現する。
 - エ：対話型システムなどで公平性と応答性を確保しやすい代表的なプリエンプティブ方式である。
- 総合解説：タイムクォンタムが小さすぎるとコンテキストスイッチのオーバーヘッドが増え、大きすぎると対話応答性が低下しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0013 1-1 コンピュータシステム > OS・仮想化 | 難易度：基礎

ページング方式の仮想記憶でページフォールトが発生するのは、一般にどのような場合か。

ア：参照しようとした仮想ページが現在主記憶に存在しない場合。

イ：CPUが除算命令を実行した場合は必ず発生する。

ウ：ネットワークでTCP接続を確立した場合は必ず発生する。

エ：キャッシュメモリにデータが存在した場合。

答え・解説 正答：ア

ア：OSは必要なページを補助記憶などから主記憶へ読み込む処理を行う。

イ：演算命令の種類だけでページフォールトが決まるわけではない。

ウ：TCP接続確立とページフォールトは直接対応しない。

エ：キャッシュヒットは通常ページフォールトの原因ではない。

総合解説：ページフォールト自体は仮想記憶の正常な仕組みの一部だが、頻発するとI/O待ちが増え性能が低下する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0014 1-1 コンピュータシステム > OS・仮想化 | 難易度：標準

LRU (Least Recently Used) ページ置換方式の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア：最も頻繁に参照されているページを必ず置換する。

イ：最も長い間参照されていないページを置換候補とする。

ウ：最初に読み込まれたページを必ず置換する。

エ：ページ番号が最大のページから置換する。

答え・解説 正答：イ

ア：LRUは参照頻度ではなく直近の参照時刻を基準にする。

イ：最近使われたページは近い将来にも使われる可能性が高いという局所性を利用する。

ウ：これはFIFOの考え方である。

エ：ページ番号の大小はLRUの選択基準ではない。

総合解説：ページ置換アルゴリズムは、ページフォールト率と実装コストの両面から評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0015 1-1 コンピュータシステム > OS・仮想化 | 難易度：応用

複数プロセスが資源を要求するシステムで、デッドロックが成立するための必要条件の組合せとして知られるものに含まれないものはどれか。

ア：ある資源を同時には一つのプロセスだけが利用できること。

イ：資源を保持したまま別の資源を待つことがあること。

ウ：全ての資源要求を必ず到着順に処理すること。

エ：複数プロセス間で資源待ちの循環が形成されること。

答え・解説 正答：ウ

ア：相互排他はデッドロック成立の必要条件の一つである。

イ：保持して待つ条件に相当する。

ウ：デッドロックの代表的な必要条件は相互排他、保持して待つ、横取り不可、循環待ちであり、到着順処理は必要条件ではない。

エ：循環待ちは必要条件の一つである。

総合解説：デッドロック対策には、必要条件の一つを成立させない予防、発生回避、検出・回復などがある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0016 1-1 コンピュータシステム > OS・仮想化 | 難易度：標準

タイプ1（ベアメタル型）ハイパーバイザの説明として、最も適切なものはどれか。

ア：一般利用者向けアプリケーションの上だけで動作し、物理資源には関与しない。

イ：仮想マシン内の各アプリケーションを必ず同じプロセスとして実行する。

ウ：コンテナイメージを保存するファイル形式の名称である。

エ：ホストOSを介さず、物理ハードウェア上で直接動作して仮想マシンを管理する。

答え・解説 正答：エ

ア：仮想化基盤は物理資源の割当てを管理する。

イ：VMごとに独立したゲストOSを動かせるため、その説明は誤りである。

ウ：ハイパーバイザはVMを実行・管理する仮想化ソフトウェアである。

エ：サーバ仮想化で用いられる代表的な方式で、ハイパーバイザがハードウェア資源をVMへ割り当てる。

総合解説：タイプ2はホストOS上で動作する。タイプ1とタイプ2の違いは仮想化基盤の配置にある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0017 1-1 コンピュータシステム > OS・仮想化 | 難易度：基礎

一般的なOSコンテナの特徴として、仮想マシンと比較して最も適切なものはどれか。

ア：ホストのOSカーネルを共有してユーザー空間を分離するため、ゲストOSをVMごとに起動する方式より軽量になりやすい。

イ：コンテナごとに必ず独自の物理CPUを専有する。

ウ：コンテナはOSカーネルを一切利用しない。

エ：仮想マシンより常に隔離が強く、カーネル共有による影響は存在しない。

答え・解説 正答：ア

ア：コンテナはプロセス分離をOS機能で実現し、起動時間や資源使用量を小さくしやすい。

イ：物理CPUを必ず専有する仕組みではない。

ウ：ホストのカーネル機能を利用する。

エ：カーネル共有という設計上の違いがあり、隔離特性はVMと同一ではない。

総合解説：コンテナとVMIは隔離方式、起動速度、資源効率、OS要件が異なるため、要件に応じて使い分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0018 1-1 コンピュータシステム > OS・仮想化 | 難易度：標準

複数スレッドが共有カウンタを同時更新することで値が失われる競合状態を防ぐ方法として、最も適切なものはどれか。

ア：全スレッドで同じ変数名を使わないよう表示名だけ変更する。

イ：更新処理をmutexなどの排他制御で保護し、同時にクリティカルセクションへ入らないようにする。

ウ：CPUクロックを下げて衝突確率を下げる。

エ：共有カウンタを毎回ディスクへコピーするだけにする。

答え・解説 正答：イ

ア：変数名の表示を変えても同じ共有データへの同時アクセスは防げない。

イ：共有データの読み書きを原子的に保護することで、read-modify-writeの競合を防げる。

ウ：タイミング依存の競合は速度調整で正しく解決できない。

エ：永続化しても排他制御なしでは同時更新競合が残る。

総合解説：並行処理では共有資源に対する排他制御と、ロック範囲・順序による性能やデッドロックへの影響を考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0019 1-1 コンピュータシステム > OS・仮想化 | 難易度：応用

サーバでページフォールトが急増し、CPU使用率は下がっている一方でストレージI/Oが飽和している。実行中プロセスのワーキングセット合計が物理メモリを大きく超えている。この状態への説明として最も適切なものはどれか。

ア：CPUの演算能力だけが不足しているため、メモリ量は無関係である。

イ：ネットワークのDNSキャッシュが原因なのでTTLを短くすれば必ず解消する。

ウ：スラッシングが発生している可能性が高く、同時実行数の抑制や物理メモリ増強などが対策候補になる。

エ：ページフォールトが多いほど実メモリ上のデータが増えるので性能は向上する。

答え・解説 正答：ウ

ア：CPU使用率が下がりI/Oが飽和しているため、メモリ不足によるページングを疑うべきである。

イ：症状は仮想記憶のページング過多と整合する。

ウ：必要ページの入替えに時間を費やし、実処理が進まない典型的な状況である。

エ：ページフォールトは補助記憶I/Oを伴い、頻発すると性能を大きく低下させる。

総合解説：スラッシングはメモリ圧迫時の重要な性能問題であり、CPUだけでなくページフォールト率とI/Oを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0020 1-1 コンピュータシステム > OS・仮想化 | 難易度：標準

forkのようなプロセス生成で使われるCopy-on-Write (COW) の説明として、最も適切なものはどれか。

ア：親プロセスの全ページを必ず先に補助記憶へ退避してから子を作る。

イ：親子プロセスが同じ物理ページへ無制御に同時書き込みする。

ウ：CPUキャッシュの内容だけをネットワーク越しに複製する方式である。

エ：生成直後は親子で同じ物理ページを共有し、どちらかが書き込む時点で必要なページを複製する。

答え・解説 正答：エ

ア：COWの中心は書き込みが起きるまで物理ページを共有することにある。

イ：書き込み時にはページを分離して独立性を保つ。

ウ：プロセスの仮想記憶ページ管理に関する方式である。

エ：不要な即時コピーを避けることで、メモリ使用量と生成コストを抑えられる。

総合解説：COWはOSのプロセス生成だけでなく、スナップショット等の実装でも利用される考え方である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0021 1-1 コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：基礎

オンラインシステムにおけるレスポンスタイムの説明として、最も適切なものはどれか。

ア：利用者が要求を出してから結果を受け取るまでの経過時間。

イ：単位時間あたりに処理できる要求件数。

ウ：故障してから修復までの平均時間。

エ：システムが稼働可能な時間の割合だけを示す値。

答え・解説 正答：ア

ア：一件の要求に対する応答の速さを表す指標である。

イ：これはスループットの説明である。

ウ：これはMTTRに関する説明である。

エ：これは可用性に関する説明である。

総合解説：性能評価では、個々の応答時間とシステム全体の処理量を区別して測定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0022 1-1 コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：標準

MTBFが990時間、MTTRが10時間の修理可能システムについて、定常的な可用性を $MTBF / (MTBF + MTTR)$ で近似するとき、可用性はいくらか。

ア：0.50 (MTBFとMTTRが等しいとみなした値)

イ：0.99 ($990 \div (990 + 10)$)

ウ：0.90 (MTTRを分母へ加えず $990 \div 1100$ とした値)

エ：1.00 (修復時間を無視して常時稼働とした値)

答え・解説 正答：イ

ア：MTBFとMTTRは990時間と10時間で等しくないため0.50にはならない。

イ：可用性 $A = MTBF / (MTBF + MTTR) = 990 / 1000 = 0.99$ である。

ウ：式に正しく代入すると0.99であり0.90ではない。

エ：MTTRが0ではないため可用性は1.00にならない。

総合解説：可用性を高めるには、故障間隔を長くするだけでなく、修復時間を短くすることも有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0023 1-1 コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：基礎

独立に故障する二つの装置A、Bを直列に接続し、両方が正常なときだけシステムが動作する。一定期間のAの信頼度が0.9、Bの信頼度が0.8のとき、システムの信頼度はどれか。

ア：0.98（故障率を単純に差し引いたと誤解した値）

イ：0.85（0.9と0.8を単純平均した値）

ウ：0.72（ 0.9×0.8 で、両方正常の確率）

エ：1.70（0.9と0.8を加算した値）

答え・解説 正答：ウ

ア：直列系の信頼度はこの値にはならない。

イ：平均ではなく、独立に両方正常である確率を求める。

ウ：独立な直列系では両装置が正常である必要があるため $0.9 \times 0.8 = 0.72$ である。

エ：確率を単純加算すると1を超え、信頼度として不適切である。

総合解説：直列系では構成要素が増えるほど一般に全体の信頼度は低下するため、冗長化方式の検討が重要になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0024 1-1 コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：標準

スケールアウトの説明として、最も適切なものはどれか。

ア：一台のサーバのCPUやメモリをより高性能なものへ交換する。

イ：処理量を減らすため利用者数を制限することだけを指す。

ウ：バックアップ媒体を増やすことでCPU性能を上げる。

エ：サーバ台数を増やし、処理を複数ノードへ分散して処理能力を拡張する。

答え・解説 正答：エ

ア：これはスケールアップである。

イ：利用制限はスケールアウトの定義ではない。

ウ：バックアップ媒体数とCPU性能拡張は直接同じ概念ではない。

エ：水平スケーリングとも呼ばれ、複数ノードに負荷を分散する考え方である。

総合解説：スケールアウトでは負荷分散、データ分散、整合性、障害時の再配置などの設計が必要になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0025 1-1 コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：応用

定常状態のシステムで平均到着率が毎秒20件、要求がシステム内に滞在する平均時間が0.5秒である。Littleの法則 $L = \lambda W$ を用いると、システム内の平均要求数Lはいくらか。

- ア：10件（20件/秒×0.5秒）
- イ：0.025件（0.5÷20とした値）
- ウ：20件（到着率だけをそのまま使った値）
- エ：40件（20÷0.5とした値）

答え・解説 正答：ア

ア：Littleの法則 $L = \lambda W$ より $20 \times 0.5 = 10$ 件である。

イ： λ と W を掛けるべきところを割っている。

ウ：滞在時間を考慮していない。

エ： $L = \lambda / W$ ではなく $L = \lambda W$ である。

総合解説：Littleの法則は、平均滞留数、到着率、平均滞在時間の関係を結ぶ基本式で、性能容量評価に利用できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0026 1-1 コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：標準

複数のWebサーバをロードバランサ配下に置く主な目的として、最も適切なものはどれか。

- ア：全要求を常に一台のサーバだけへ集中させる。
- イ：要求を複数サーバへ分散し、処理能力や可用性を高める。
- ウ：DNSを不要にすることだけが目的である。
- エ：データベースの全トランザクションを自動的に直列化する。

答え・解説 正答：イ

ア：負荷分散の目的と逆である。

イ：負荷を分散するとともに、故障ノードを振り分け先から除外できる構成も取れる。

ウ：ロードバランシングの主目的は要求の分散と可用性向上である。

エ：ロードバランサは一般にアプリケーション要求の振分けを担い、DBトランザクション直列化が主目的ではない。

総合解説：負荷分散方式を設計する際は、セッション維持、ヘルスチェック、バックエンド容量も考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0027 1-1 コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：基礎

高可用性クラスタにおけるフェイルオーバーの説明として、最も適切なものはどれか。

- ア：故障した装置を廃棄するまでサービスを必ず停止する。
- イ：性能試験の測定値を平均化すること。
- ウ：稼働系に障害が発生したとき、待機系など別のノードへサービスを引き継ぐ。
- エ：全ての障害をソフトウェア更新だけで予防すること。

答え・解説 正答：ウ

- ア：フェイルオーバーは停止時間を短縮するための仕組みである。
 - イ：性能測定手法ではない。
 - ウ：サービス継続のために実行主体を切り替える仕組みである。
 - エ：障害発生後のサービス引継ぎを指す。
- 総合解説：フェイルオーバーには障害検出、状態同期、切替時間、スプリットブレイン対策などが関係する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0028 1-1 コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：標準

キャパシティプランニングとして最も適切な活動はどれか。

- ア：障害が起きるまで資源使用率を一切測定しない。
- イ：将来需要に関係なく常に最大構成を購入する。
- ウ：レスポンスタイムだけを見て、CPUやI/Oなどの利用率は無視する。
- エ：将来の処理量増加を予測し、CPU・メモリ・I/O・ネットワーク等の必要資源を見積もって増強時期を計画する。

答え・解説 正答：エ

- ア：計画には継続的な測定と予測が必要である。
 - イ：過剰投資となる可能性があり、需要予測に基づく合理的計画ではない。
 - ウ：複数資源のボトルネックを把握する必要がある。
 - エ：性能目標を維持しながら需要増に対応できるよう、資源利用傾向と業務成長を基に計画する。
- 総合解説：キャパシティプランニングでは、現状測定、成長予測、性能目標、余裕率、増強リードタイムを組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0029 1-1 コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：応用

同一サービスを複数ノードで同時稼働させるアクティブ・アクティブ構成について、最も適切な説明はどれか。

ア：平常時から複数ノードの資源を活用できる一方、共有状態やデータ整合性、障害時の再分配を適切に設計する必要がある。

イ：待機系は平常時には必ず電源を切っておく構成だけを指す。

ウ：複数ノードが同じデータを扱う場合でも整合性設計は不要である。

エ：一台のノードが故障すると必ず全サービスが停止する。

答え・解説 正答：ア

ア：資源利用効率と可用性に利点があるが、状態同期や整合性設計が複雑になる場合がある。

イ：それはアクティブ・スタンバイの一形態に近い。

ウ：同時更新や状態共有がある場合は整合性設計が重要である。

エ：適切な冗長化構成では残存ノードでサービス継続を図る。

総合解説：高可用性設計では、冗長化だけでなく障害検出、切替、データ整合性、容量余裕を総合的に評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0030 1-1 コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：標準

異なるデータベースサーバ製品のベンチマーク結果を比較するときの考え方として、最も適切なものはどれか。

ア：カタログ上のCPUクロックだけで必ず実性能を判断する。

イ：実運用に近いデータ量、同時実行数、I/O構成など条件を揃え、測定指標と前提条件を確認して比較する。

ウ：一回だけ測定した最小応答時間だけを採用する。

エ：ベンチマークのワークロードが実運用と異なっても結果は完全に同じとみなせる。

答え・解説 正答：イ

ア：実性能はCPU以外のI/O、メモリ、ソフトウェア構成などにも依存する。

イ：ベンチマーク値はワークロードや構成に依存するため、条件を揃えない単純比較は危険である。

ウ：ばらつきや定常状態を考慮した複数回測定が望ましい。

エ：ワークロード特性が異なれば順位や性能差が変わることがある。

総合解説：性能比較では再現可能な条件と代表的ワークロードを定め、平均値だけでなく分布やボトルネックも確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0031 1-2 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・通信 | 難易度：基礎

OSI基本参照モデルで、IPによるルーティングに相当する機能を主に扱う層はどれか。

- ア：物理層
- イ：データリンク層
- ウ：ネットワーク層
- エ：アプリケーション層

答え・解説 正答：ウ

- ア：物理媒体上の信号伝送を扱う。
 - イ：同一リンク上のフレーム転送やMACアドレス等を扱う。
 - ウ：ネットワーク層は異なるネットワーク間の経路選択や論理アドレスによる配送を扱う。
 - エ：利用者・アプリケーションに近い通信機能を扱う。
- 総合解説：TCP/IPとOSI参照モデルを対応付けて理解すると、障害切り分けやプロトコルの役割を整理しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0032 1-2 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・通信 | 難易度：標準

IPv4ネットワーク192.0.2.0/26を、ネットワークアドレスとブロードキャストアドレスを除く通常のホストアドレスとして利用する場合、利用可能なアドレス数はいくつか。

- ア：26個（プレフィックス長をそのまま個数とした値）
- イ：64個（/26の総アドレス数 2^6 をそのまま使った値）
- ウ：126個（/25相当の利用可能数と取り違えた値）
- エ：62個（ $2^{(32-26)}-2$ でネットワーク/ブロードキャストを除外）

答え・解説 正答：エ

- ア：/26はホスト数そのものではない。
 - イ：総アドレス数は64だが、通常のホスト利用ではネットワークアドレスとブロードキャストアドレスを除く。
 - ウ：/26のホスト部は6ビットであり、/25の計算を適用するのは誤りである。
 - エ： $2^6=64$ からネットワークアドレスとブロードキャストアドレスを除き62個となる。
- 総合解説：CIDRではプレフィックス長からアドレス範囲を計算できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0033 1-2 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・通信 | 難易度：基礎

同一IPv4 LAN内で、送信先IPv4アドレスに対応するMACアドレスを求めるために用いられる代表的なプロトコルはどれか。

ア：ARP
イ：DNS
ウ：SMTP
エ：NTP

答え・解説 正答：ア

ア：ARPはIPv4アドレスとリンク層のMACアドレスの対応を解決する。

イ：DNSは主にホスト名とIPアドレス等の名前解決を行う。

ウ：SMTPは電子メールの転送に用いられる。

エ：NTPは時刻同期に用いられる。

総合解説：異なるネットワーク宛てでは、端末は通常デフォルトゲートウェイのMACアドレスをARPで解決してフレームを送る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0034 1-2 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・通信 | 難易度：標準

TCPとUDPの比較として、最も適切なものはどれか。

ア：UDPは必ずTCPより高い信頼性を保証する。

イ：TCPは信頼性のあるバイトストリームを提供し、UDPはコネクションレスで再送や順序制御を基本機能として持たない。

ウ：TCPはIPを使わず、UDPだけがIP上で動作する。

エ：TCPとUDPはポート番号を使用しない。

答え・解説 正答：イ

ア：UDP自体は到達保証や順序保証を提供しない。

イ：TCPは接続管理、再送、順序制御、フロー制御等を提供する一方、UDPは小さいオーバーヘッドでデータグラムを送る。

ウ：TCPもUDPも通常IP上で動作する。

エ：どちらもアプリケーション識別にポート番号を使用する。

総合解説：通信方式選択では、信頼性、遅延、再送制御、アプリケーション要件を考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0035 1-2 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・通信 | 難易度：応用

ルータの経路表に「10.0.0.0/8 → A」「10.1.0.0/16 → B」「10.1.2.0/24 → C」がある。宛先10.1.2.50のパケットを転送する経路として、通常の最長一致（Longest Prefix Match）ではどれを選ぶか。

ア：A

イ：B

ウ：C

エ：一致する経路が複数あるため必ず破棄する。

答え・解説 正答：ウ

ア：/8より具体的な/16と/24が一致するため選ばれない。

イ：/16より具体的な/24が一致する。

ウ：宛先には三つ全てが一致するが、最もプレフィックス長が長い/24の経路Cが選ばれる。

エ：IPルーティングでは最長プレフィックス一致で最も具体的な経路を選ぶ。

総合解説：経路選択では、まず宛先に一致する経路のうち最長プレフィックスを優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0036 1-2 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・通信 | 難易度：標準

DNSレコードのTTLを短く設定した場合の一般的な影響として、最も適切なものはどれか。

ア：TTLを短くするとIPパケットのMTUが必ず増える。

イ：TTLを短くするとDNSSECによる署名検証が不要になる。

ウ：TTLはTCPのウィンドウサイズを直接指定する値である。

エ：変更がキャッシュに残る時間を短くできる一方、権威DNSへの問い合わせ回数が増えやすい。

答え・解説 正答：エ

ア：TTLとMTUは別の概念である。

イ：DNSSECの有無とは別である。

ウ：DNSのTTLはキャッシュ保持時間に関する値である。

エ：TTLが短いほどキャッシュが早く失効し、変更反映は速くなりやすいが問い合わせ負荷は増える。

総合解説：DNS切替計画ではTTL、キャッシュ、変更タイミングを考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0037 1-2 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・通信 | 難易度：基礎

NAPT（IPマスカレード）の説明として、最も適切なものはどれか。

ア：複数の内部端末の通信を、IPアドレスとポート番号の変換によって一つ又は少数のグローバルIPv4アドレスへ多重化する。

イ：MACアドレスだけを暗号化する方式である。

ウ：IPv6アドレスを必ずIPv4アドレスへ変換する仕組みだけを指す。

エ：ルーティングテーブルを不要にするプロトコルである。

答え・解説 正答：ア

ア：NAPTはアドレスだけでなくポート番号も変換して複数セッションを識別する。

イ：NAPTはIPアドレスとポートの変換に関する方式である。

ウ：NAPTは一般にIPv4プライベートアドレス共有で使われる。

エ：NAPTを使ってもルーティングは必要である。

総合解説：NAPTはIPv4アドレス節約に広く使われるが、エンドツーエンド接続や受信接続に影響を与える場合がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0038 1-2 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・通信 | 難易度：標準

IEEE 802.1Qなどを用いるVLANの目的として、最も適切なものはどれか。

ア：一つのIPパケットを必ず複数のTCP接続へ変換する。

イ：物理スイッチ構成だけに依存せず、論理的にブロードキャストドメインを分割する。

ウ：全ての通信をインターネットへ公開する。

エ：IPアドレスを使わずにルータ間の経路を自動交換する。

答え・解説 正答：イ

ア：VLANはTCP接続変換の仕組みではない。

イ：VLANにより同じ物理スイッチ上でも論理ネットワークを分離できる。

ウ：論理分割が目的であり公開を強制するものではない。

エ：経路交換プロトコルとは異なる。

総合解説：VLAN間通信には通常L3ルーティングが必要で、セキュリティ境界として使う場合はACL等も組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0039 1-2 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・通信 | 難易度：応用

往復遅延が大きい高速回線で、TCPの送信ウィンドウが小さいため回線帯域を使い切れない。改善の考え方として最も適切なものはどれか。

ア：IPアドレスのサブネットマスクを短くすれば必ず改善する。

イ：DNSのTTLを0にすればデータ転送速度が上がる。

ウ：帯域遅延積を考慮し、受信側・送信側のウィンドウやバッファを適切に大きくする。

エ：TCPの再送制御を全て無効にすれば信頼性を保ったまま必ず改善する。

答え・解説 正答：ウ

ア：サブネット長とTCPウィンドウ制約は直接の解決策ではない。

イ：DNSキャッシュ時間は確立後のTCP転送速度とは別である。

ウ：高帯域・高遅延回線では、未確認のまま送れるデータ量が小さいとACK待ちで帯域を使い切れない。

エ：再送は信頼性確保の重要機能で、単純無効化は適切でない。

総合解説：ネットワーク性能は帯域だけでなくRTT、ウィンドウサイズ、損失率などに依存する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0040 1-2 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・通信 | 難易度：標準

端末が自分と異なるIPv4サブネットの宛先へパケットを送るとき、一般的な動作として最も適切なものはどれか。

ア：最終宛先のMACアドレスをインターネット全体へARPで問い合わせる。

イ：IPアドレスを削除し、MACアドレスだけでルータを越えて転送する。

ウ：DNSへパケット本体を送り、DNSが宛先まで中継する。

エ：ルーティング表により次ホップを決め、通常はデフォルトゲートウェイのMACアドレス宛てにフレームを送る。

答え・解説 正答：エ

ア：ARPは同一リンク内で用い、遠隔宛先では次ホップを解決する。

イ：ルータ間の転送ではIPアドレスが必要である。

ウ：DNSは名前解決を行うもので、一般のIPパケットを中継しない。

エ：IP宛先は最終宛先のまま、リンク層では次ホップのMACアドレスを使用する。

総合解説：L2の宛先とL3の宛先を区別することが、ネットワーク動作理解の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0041 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：基礎

共通鍵暗号方式の特徴として、最も適切なものはどれか。

ア：暗号化と復号に同じ秘密鍵又は対応する同一秘密情報を用い、高速なデータ暗号化に適する。

イ：暗号化鍵は誰に公開してもよく、復号鍵だけが秘密である。

ウ：鍵を一切使わずに暗号化する方式である。

エ：デジタル署名だけに使われ、データ暗号化には使えない。

答え・解説 正答：ア

ア：共通鍵を安全に共有する必要があるが、一般に公開鍵暗号より高速で大量データ暗号化に向く。

イ：これは公開鍵暗号の典型的な説明である。

ウ：暗号方式には鍵が用いられる。

エ：共通鍵暗号はデータ暗号化に広く用いられる。

総合解説：共通鍵暗号では鍵配送・鍵管理が重要な課題となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0042 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：標準

TLSなどで使われるハイブリッド暗号の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア：全データをハッシュ値に変換し、元データを復元して通信する。

イ：公開鍵暗号等でセッション鍵を安全に共有し、実データは高速な共通鍵暗号で暗号化する。

ウ：公開鍵と秘密鍵を同じ値にして鍵管理を単純化する。

エ：暗号化せず、ポート番号だけを秘密にする。

答え・解説 正答：イ

ア：ハッシュは通常一方向であり復号して元データを得る方式ではない。

イ：公開鍵暗号の鍵配送上の利点と共通鍵暗号の高速性を組み合わせる。

ウ：公開鍵暗号は異なる鍵の対を用いる。

エ：ポート番号の秘匿は暗号化の代替にならない。

総合解説：ハイブリッド方式は現実的なセキュア通信で広く使われる基本構成である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0043 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：基礎

暗号学的ハッシュ関数の利用目的として、最も適切なものはどれか。

ア：ハッシュ値から必ず元データを完全復元する。

イ：ネットワーク帯域を必ず2倍に増やす。

ウ：データから固定長のダイジェストを生成し、改ざん検出などに利用する。

エ：ユーザーの権限を自動的に管理者へ昇格する。

答え・解説 正答：ウ

ア：暗号学的ハッシュは一方方向性を重視し、復号を目的としない。

イ：帯域拡張機能ではない。

ウ：入力の特徴的な変化で出力が大きく変わる性質等を利用して完全性確認に使う。

エ：アクセス権管理の機能ではない。

総合解説：ハッシュは単独では送信者認証にならない。MACやデジタル署名などと組み合わせる用途を区別する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0044 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：標準

公開鍵暗号方式を利用したデジタル署名について、送信者Aの署名を検証する側が通常必要とするものはどれか。

ア：Aの秘密鍵

イ：検証者自身の秘密鍵だけ

ウ：暗号化されていないパスワード一覧

エ：Aの公開鍵

答え・解説 正答：エ

ア：秘密鍵はAが安全に保持すべきで、検証者へ配布しない。

イ：Aの署名検証にはAの公開鍵が必要である。

ウ：デジタル署名の検証に不要であり、保存も危険である。

エ：Aが秘密鍵で生成した署名を、対応する公開鍵で検証することで署名者と改ざんの有無を確認する。

総合解説：デジタル署名では秘密鍵の保護と、公開鍵が本人のものと確認できる仕組みが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0045 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：応用

WebブラウザがTLSサーバ証明書を検証するときの考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア：信頼済みルートCAまでの証明書チェーン、署名、有効期限、ホスト名を確認する。
- イ：証明書に書かれた公開鍵があれば、発行者や有効期限は一切確認しない。
- ウ：サーバの秘密鍵をブラウザへ送信させて一致確認する。
- エ：証明書のファイルサイズだけで正当性を判断する。

答え・解説 正答：ア

ア：証明書の公開鍵が正当な主体に結び付いていることを複数の検証条件から確認する。

イ：公開鍵だけでは正当性を保証できず、証明書検証が必要である。

ウ：秘密鍵はサーバから外部へ送らない。

エ：ファイルサイズは正当性の証明にならない。

総合解説：PKIは公開鍵と主体の対応を証明書によって信頼連鎖に結び付ける仕組みである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0046 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：標準

多要素認証（MFA）の例として、最も適切なものはどれか。

- ア：パスワードと秘密の質問を組み合わせる。
- イ：パスワードと、スマートフォン上の認証アプリによるワンタイムコードを組み合わせる。
- ウ：同じパスワードを2回入力する。
- エ：二つの異なるパスワードを入力する。

答え・解説 正答：イ

ア：どちらも主に知識要素であり、異なる要素の組合せとは限らない。

イ：知識要素と所持要素という異なる種類の要素を組み合わせている。

ウ：要素の種類は増えていない。

エ：両方とも知識要素であり、一般的な多要素認証の定義にはならない。

総合解説：MFAは認証要素の「数」だけでなく、知識・所持・生体など異なるカテゴリを組み合わせることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0047 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：基礎

RBAC（Role-Based Access Control）の説明として、最も適切なものはどれか。

ア：全利用者へ常に管理者権限を与える。

イ：IPアドレスだけで利用者本人を認証する。

ウ：利用者を役割に割り当て、役割に権限を付与してアクセスを制御する。

エ：暗号鍵の長さだけでアクセス可否を決める。

答え・解説 正答：ウ

ア：RBACは役割に応じて必要な権限を分ける。

イ：RBACは認証方式そのものではなく認可モデルである。

ウ：職務や役割を基準に権限をまとめるため、利用者ごとの個別権限管理を減らしやすい。

エ：役割と権限の対応で制御する。

総合解説：RBACは職務分掌や最小権限の実装に適し、役割設計と権限レビューが重要となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0048 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：標準

データベースのアプリケーション用アカウントへ権限を付与する方針として、最小権限の原則に最も合致するものはどれか。

ア：将来必要になる可能性を考えて、最初からDBA相当の全権限を与える。

イ：権限管理を避けるため全アプリで同じ管理者アカウントを共有する。

ウ：アカウントにパスワードがあれば、権限は無制限でよい。

エ：必要なテーブル・操作だけに限定して権限を付与し、不要なDDL権限や管理者権限は与えない。

答え・解説 正答：エ

ア：不要な権限が増え、被害範囲も大きくなる。

イ：追跡性と権限分離を損なう。

ウ：認証と認可は別であり、認証済みでも必要最小限の権限に制限すべきである。

エ：侵害や誤操作が起きた場合の影響範囲を小さくできる。

総合解説：最小権限はDBセキュリティの基本であり、サービスアカウントを用途別に分離することも有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0049 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：応用

同じパスワードを持つ利用者が複数いるシステムで、利用者ごとに異なるランダムなソルトを付けてパスワードをハッシュ保存する主な利点はどれか。

ア：同じパスワードでも保存されるハッシュ値を異ならせ、事前計算済みハッシュ表による一括照合を難しくする。

イ：ソルトを付ければ低強度の高速ハッシュでもオフライン総当たりが不可能になる。

ウ：ソルトは全利用者で同じ固定値にするほど効果が高い。

エ：ソルトを使えばパスワードを平文で同時保存しても安全になる。

答え・解説 正答：ア

ア：ソルトは秘密である必要はないが、利用者ごとに一意な値を使うことでレインボーテーブル等の効率を下げる。

イ：ソルトだけでは総当たりを不可能にできず、適切なパスワードハッシュ方式とコスト設定が必要である。

ウ：利用者ごとに異なる値の方が同一パスワードの同一ハッシュ化を防げる。

エ：平文保存は避けるべきで、ソルトは平文保存の危険を解消しない。

総合解説：パスワード保存では、ソルトに加え、意図的に計算コストを高くした専用のパスワードハッシュ方式を使うことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0050 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：標準

「利用者が誰であることを確認した後、その利用者が給与テーブルを参照してよいか判断する」処理について、後半の判断は何に該当するか。

ア：認証（Authentication）だけ

イ：認可（Authorization）

ウ：暗号化（Encryption）

エ：ハッシュ化（Hashing）

答え・解説 正答：イ

ア：認証は主体の同一性確認であり、資源利用可否の判断は認可である。

イ：認可は、認証済み主体にどの資源・操作を許可するかを決定する。

ウ：暗号化はデータの機密性を保護する技術で、権限判断そのものではない。

エ：ハッシュ化はデータからダイジェストを作る処理で、アクセス可否判断とは異なる。

総合解説：セキュリティ設計では、認証、認可、監査を分けて考えると要件を整理しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0051 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ管理 | 難易度：基礎

SQLインジェクション対策として、最も適切なものはどれか。

ア：利用者入力をそのまま文字列連結してSQL文を作る。

イ：DBアカウントへ常に管理者権限を与える。

ウ：プレースホルダを用いたパラメータ化クエリを使用し、SQL構文と入力値を分離する。

エ：エラーメッセージを詳しく表示すれば攻撃を防げる。

答え・解説 正答：ウ

ア：攻撃用文字列がSQL構文として解釈される危険がある。

イ：侵害時の影響を大きくし、対策にならない。

ウ：入力値をSQL構文として解釈させないことが基本対策である。

エ：詳細エラーはむしろ内部情報を与えることがあり、根本対策ではない。

総合解説：SQLインジェクションは入力値をSQL構文へ混入させる攻撃であり、パラメータ化と最小権限を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0052 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ管理 | 難易度：標準

Webアプリケーションでクロスサイトスクリプティング (XSS) を防ぐ基本策として、最も適切なものはどれか。

ア：全入力をSQL文へ連結してから表示する。

イ：HTTPを使わず必ずUDPにすれば防げる。

ウ：データベースのバックアップ回数を増やすだけで防げる。

エ：出力する文脈に応じてHTMLエスケープ等の適切な出力エンコーディングを行う。

答え・解説 正答：エ

ア：SQLインジェクションの危険も生じ、XSS対策にならない。

イ：トランスポート方式の変更にXSSは防げない。

ウ：バックアップは復旧策であり、ブラウザでのスクリプト実行防止にはならない。

エ：利用者入力等がブラウザ上でスクリプトとして解釈されないようにすることが基本である。

総合解説：XSS対策では、入力検証だけに頼らず、出力文脈に応じたエンコーディングやCSPなどを組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0053

1-2 ネットワーク・セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ管理 | 難易度：基礎

CSRF (Cross-Site Request Forgery) の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア：ログイン済み利用者のブラウザに、利用者の意図しない状態変更リクエストを送信させる攻撃。
- イ：サーバのCPUを物理的に破壊する攻撃だけを指す。
- ウ：暗号鍵を数学的に必ず解読する攻撃である。
- エ：DNS名前解決を高速化する技術である。

答え・解説

正答：ア

ア：ブラウザが保持する認証情報を利用して正規サイトへ不正な要求を送らせる。

イ：Webアプリケーションのリクエスト悪用に関する攻撃である。

ウ：暗号解読とは異なる。

エ：攻撃手法でありDNS高速化技術ではない。

総合解説：対策にはCSRFトークン、SameSite Cookie、重要操作の再認証などがある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0054

1-2 ネットワーク・セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ管理 | 難易度：標準

大量の分散トラフィックによるDDoS攻撃への対策として、最も適切な考え方はどれか。

- ア：Webサーバのログを削除すればトラフィック量も減る。
- イ：上流でのトラフィック吸収・フィルタリング、CDNやDDoS防御サービス、レート制御などを多層的に組み合わせる。
- ウ：DB管理者権限を全利用者へ付与する。
- エ：DNSのAレコードを一つ増やすだけで、どの規模の攻撃も必ず防げる。

答え・解説

正答：イ

ア：ログ削除は攻撃トラフィックの抑制にならない。

イ：回線容量を超える攻撃はサーバ単体の対策だけでは防ぎにくく、上流対策を含む設計が有効である。

ウ：DDoS対策とは無関係で、重大なリスクを増やす。

エ：単一の設定だけで全DDoSを防げるとは限らない。

総合解説：DDoSは可用性を狙う攻撃であり、ネットワーク・アプリケーション・運用をまたぐ多層防御が必要となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0055 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ管理 | 難易度：応用

ランサムウェアによる暗号化被害からの復旧可能性を高めるバックアップ方針として、最も適切なものはどれか。

ア：本番サーバと同じ共有フォルダにだけバックアップを置き、同じ管理者資格情報で常時書換え可能にする。

イ：バックアップは取得するが、復元テストは一度も行わない。

ウ：本番環境から常時書換え可能でない隔離・オフライン又はイミュータブルなバックアップを含め、復元試験を定期的に行う。

エ：暗号化された本番データだけを上書き保存し、世代管理を行わない。

答え・解説 正答：ウ

ア：侵害時にバックアップも同時に破壊される危険が高い。

イ：取得済みでも復元不能な場合があるため検証が必要である。

ウ：攻撃者が本番と同じ権限でバックアップまで暗号化・削除することを防ぎ、実際に復元できることを確認する。

エ：正常世代を失う可能性があり復旧性が低い。

総合解説：バックアップは「あること」ではなく、攻撃から隔離され、必要なRPO/RTOで復元できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0056 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ管理 | 難易度：標準

情報セキュリティにおける「脆弱性」の説明として、最も適切なものはどれか。

ア：資産に損害を与え得る攻撃者や事象そのもの。

イ：損失発生の可能性と影響を組み合わせた評価結果。

ウ：対策実施後に必ずゼロになる値。

エ：攻撃や事故によって悪用され得る、システムや運用上の弱点。

答え・解説 正答：エ

ア：これは脅威に近い。

イ：これはリスクの説明に近い。

ウ：リスクは一般に完全にゼロにはできず、残留リスクを管理する。

エ：未修正ソフトウェア、弱い設定、不適切な権限などが脆弱性の例となる。

総合解説：リスク評価では、資産、脅威、脆弱性、影響、発生可能性を区別して整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0057 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ管理 | 難易度：基礎

情報セキュリティリスク対応のうち「リスク移転」の例として、最も適切なものはどれか。

ア：サイバー保険に加入し、一定の損失負担を保険契約へ移す。

イ：脆弱なサービスを停止して、その業務自体をやめる。

ウ：多要素認証を導入して発生可能性を下げる。

エ：小さい残留リスクを承認して現状のまま受容する。

答え・解説 正答：ア

ア：リスクの財務的影響の一部を第三者へ移す代表例である。

イ：これはリスク回避に近い。

ウ：これはリスク低減に近い。

エ：これはリスク受容である。

総合解説：代表的なリスク対応には回避、低減、移転（共有）、受容があり、組織の基準に基づいて選択する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0058 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ管理 | 難易度：標準

Defense in Depth（多層防御）の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア：一つの高価なファイアウォールだけに全ての防御を依存する。

イ：単一对策の突破を前提に、ネットワーク、認証、端末、アプリケーション、監視など複数層で防御する。

ウ：全ての利用者へ同じ管理者パスワードを配布する。

エ：ログを取得しないことで攻撃者に情報を与えない。

答え・解説 正答：イ

ア：単一障害点・単一防御点への依存は多層防御ではない。

イ：一つの対策が失敗しても別の層で検知・阻止・被害限定できるようにする。

ウ：権限分離を損ないリスクを高める。

エ：監視・検知能力を失うため適切でない。

総合解説：多層防御は予防、検知、対応、復旧を組み合わせることで侵害の影響を抑える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0059 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ管理 | 難易度：応用

同時に多数の脆弱性が見つかった。修正優先順位を決める方法として、最も適切なものはどれか。

ア：CVSS基本値だけを唯一の基準とし、資産や公開状況は一切見ない。

イ：発見日が古いものは無条件で安全とみなす。

ウ：脆弱性の深刻度だけでなく、外部公開状況、悪用実績、資産重要度、代替防御、業務影響を組み合わせ判断する。

エ：修正が難しいものはリスク評価せず永久に放置する。

答え・解説 正答：ウ

ア：深刻度は重要だが、組織固有の露出や影響を考慮すべきである。

イ：古い脆弱性でも未修正で悪用可能なら高リスクである。

ウ：同じ技術的深刻度でも実際のリスクは露出度や資産価値によって変わる。

エ：代替対策や受容判断を含め、管理プロセスに載せる必要がある。

総合解説：脆弱性管理は「重大度ランキング」だけでなく、実環境でのリスクに基づく優先順位付けが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0060 1-2 ネットワーク・セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ管理 | 難易度：標準

侵害が疑われるサーバを発見した直後の対応として、最も適切な考え方はどれか。

ア：調査前に全ログを削除してサーバを初期化する。

イ：発見者個人の判断だけで外部へ詳細情報を公開する。

ウ：サービス影響が怖いので侵害の疑いを記録せず放置する。

エ：組織のインシデント対応手順に従い、影響拡大を抑えつつ証拠保全と関係者への連絡・記録を行う。

答え・解説 正答：エ

ア：証拠を失い、原因究明や影響範囲確認が困難になる。

イ：組織の報告・広報・法務手順に従うべきである。

ウ：被害拡大や報告遅延につながる。

エ：間違った操作で証拠を失わず、封じ込め・調査・復旧を計画的に進める。

総合解説：インシデント対応では、準備、検知・分析、封じ込め、根絶、復旧、事後改善を組織手順として整備する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0061 1-3 アルゴリズム・開発技術 > アルゴリズム・データ構造 | 難易度：基礎

n個の要素が昇順に整列済みの配列に対して二分探索を行うとき、比較回数のオーダーとして最も適切なものはどれか。

ア： $O(\log n)$ イ： $O(1)$ が常に保証される。ウ： $O(n)$ エ： $O(n^2)$

答え・解説 正答：ア

ア：探索範囲を比較ごとにほぼ半分へ狭めるため、対数時間となる。

イ：要素数に関係なく一定回数で必ず見つかるわけではない。

ウ：線形探索の代表的なオーダーである。

エ：二重ループ型処理などで現れるが二分探索のオーダーではない。

総合解説：二分探索は整列済みデータを前提とする。探索前の整列コストも全体設計では考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0062 1-3 アルゴリズム・開発技術 > アルゴリズム・データ構造 | 難易度：標準

関数呼出しの戻り先や局所変数を管理する実行時スタックに適したデータ構造の性質はどれか。

ア：FIFO（先入れ先出し）

イ：LIFO（後入れ先出し）

ウ：キーの大小だけで自動的に平衡化される木構造

エ：全要素を常に同時に取り出す集合構造

答え・解説 正答：イ

ア：待ち行列に適した性質であり、ネストした関数呼出しの復帰順序とは異なる。

イ：最後に呼び出した関数から先に復帰するため、呼出し履歴はスタックと相性がよい。

ウ：探索木の性質であり、呼出し履歴管理の本質ではない。

エ：スタックは一端からpush/popする。

総合解説：スタックは再帰呼出し、式評価、深さ優先探索などでも利用される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0063 1-3 アルゴリズム・開発技術 > アルゴリズム・データ構造 | 難易度：基礎

到着順にジョブを処理する待ち行列を実装する基本データ構造として、最も適切なものはどれか。

- ア：スタック
- イ：ヒープ領域そのもの
- ウ：キュー
- エ：ハッシュ関数

答え・解説 正答：ウ

ア：スタックはLIFOで後から追加した要素を先に取り出す。
イ：メモリ領域の名称でありFIFO構造を意味しない。
ウ：キューはFIFOで、先に追加された要素から取り出す。
エ：値からハッシュ値を計算する関数であり待ち行列構造ではない。
総合解説：キューはジョブ管理、メッセージ処理、幅優先探索などに使われる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0064 1-3 アルゴリズム・開発技術 > アルゴリズム・データ構造 | 難易度：標準

ハッシュ表における「衝突（collision）」の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア：同じキーを検索すると必ず異なる値が返ること。
- イ：配列の添字が必ず負になること。
- ウ：キーを整列しないとハッシュ関数が実行できないこと。
- エ：異なるキーが同じハッシュ位置へ対応すること。

答え・解説 正答：エ

ア：通常同じキーは同じ位置決定に使われる。
イ：衝突の定義ではない。
ウ：ハッシュ表は整列を前提としない。
エ：有限個のバケットへ多数のキーを写像するため衝突は起こり得て、チェイン法やオープンアドレス法などで処理する。
総合解説：ハッシュ表の性能はハッシュ関数、負荷率、衝突処理方式に依存する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0065 1-3 アルゴリズム・開発技術 > アルゴリズム・データ構造 | 難易度：応用

重み付き有向グラフの単一始点最短経路をDijkstra法で求めたい。適用上の前提として最も重要なものはどれか。

ア：辺の重みが負でないこと。

イ：グラフが必ず完全グラフであること。

ウ：全頂点の次数が同じであること。

エ：辺の重みが全て異なること。

答え・解説 正答：ア

ア：Dijkstra法は確定済み最短距離を後から負辺で小さくされない前提に依存する。

イ：完全グラフである必要はない。

ウ：次数の均一性は前提ではない。

エ：同じ重みの辺があっても適用できる。

総合解説：負の辺を含む場合はBellman-Ford法など、条件に適したアルゴリズムを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0066 1-3 アルゴリズム・開発技術 > アルゴリズム・データ構造 | 難易度：標準

重みのないグラフで、始点から各頂点までの最小辺数を求めるのに適した探索方法はどれか。

ア：深さ優先探索（DFS）だけを使えば常に最小辺数が最初に得られる。

イ：幅優先探索（BFS）

ウ：二分探索

エ：バブルソート

答え・解説 正答：イ

ア：DFSは深く進むため、最初に見つけた経路が最短とは限らない。

イ：BFSは始点から距離0、1、2...の順に層状に探索するため、重みなしグラフの最短辺数を求められる。

ウ：整列配列の探索法であり一般グラフの最短辺数探索には使わない。

エ：整列アルゴリズムでありグラフ探索ではない。

総合解説：BFSはキュー、DFSはスタック又は再帰と結び付けて理解するとよい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0067 1-3 アルゴリズム・開発技術 > アルゴリズム・データ構造 | 難易度：基礎

安定ソートの説明として、最も適切なものはどれか。

ア：どの入力でも必ず $O(1)$ 時間で終了する。

イ：ソート後の配列が暗号化される。

ウ：キーが等しい要素同士の元の相対順序を、ソート後も保持する。

エ：メモリを一切使用しないソートだけを指す。

答え・解説 正答：ウ

ア：安定性は計算量とは別の性質である。

イ：安定性と暗号化は無関係である。

ウ：複数キーで段階的に整列する場合などに重要な性質である。

エ：安定性は追加メモリ使用量とは別である。

総合解説：アルゴリズム選択では、時間計算量、空間計算量、安定性、入力特性を総合的に見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0068 1-3 アルゴリズム・開発技術 > アルゴリズム・データ構造 | 難易度：標準

多数のジョブから「優先度が最も高いジョブ」を繰り返し取り出し、新しいジョブも随時追加したい。代表的に適したデータ構造はどれか。

ア：単方向にしか参照できない固定長文字列

イ：画像ファイル

ウ：DNSキャッシュ

エ：ヒープを用いた優先度付きキュー

答え・解説 正答：エ

ア：優先度順の効率的な取り出し構造ではない。

イ：データ構造としての優先度管理には適さない。

ウ：名前解決用のキャッシュでありジョブ優先度管理のデータ構造ではない。

エ：ヒープは最小値又は最大値の取得と要素追加を効率的に行える。

総合解説：ヒープは優先度付きキュー、ヒープソート、Dijkstra法の実装などで利用される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0069 1-3 アルゴリズム・開発技術 > アルゴリズム・データ構造 | 難易度：応用

同じ部分問題を何度も再計算する単純再帰アルゴリズムを高速化したい。問題が最適部分構造と重複部分問題を持つ場合、適切な考え方はどれか。

ア：計算済み部分問題の結果を保存して再利用するメモ化や動的計画法を用いる。

イ：同じ部分問題を意図的にさらに多く再計算する。

ウ：入力を毎回無作為に並べ替えば必ず高速になる。

エ：全ての計算結果を破棄してメモリ使用を最大化する。

答え・解説 正答：ア

ア：重複する部分問題を一度だけ計算して再利用することで、計算量を大幅に削減できる場合がある。

イ：重複計算が増えて性能を悪化させる。

ウ：問題構造に基づく改善ではなく保証もない。

エ：結果再利用が高速化の要点である。

総合解説：動的計画法は、部分問題の結果再利用によって指数時間の再帰を多項式時間へ改善できる典型例がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0070 1-3 アルゴリズム・開発技術 > アルゴリズム・データ構造 | 難易度：標準

入力件数 n が十分大きいとき、一般に最も増加が緩やかな計算量はどれか。

ア： $O(n)$

イ： $O(\log n)$

ウ： $O(n \log n)$

エ： $O(n^2)$

答え・解説 正答：イ

ア：線形時間は対数時間より速く増える。

イ：対数時間は n が増えても増加が緩やかである。

ウ：線形対数時間は $O(\log n)$ より速く増える。

エ：二乗時間はさらに速く増える。

総合解説：オーダ記法は定数係数を無視した漸近的な増加率を表し、大規模データ処理の見積りに有用である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0071 1-3 アルゴリズム・開発技術 > システム開発・設計・テスト | 難易度：基礎

システム開発における要件定義の主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア：実装済みプログラムの機械語を直接修正することだけ。

イ：障害発生後にバックアップ媒体を廃棄すること。

ウ：利用者や業務のニーズを整理し、システムが満たすべき機能要件・非機能要件などを明確にする。

エ：全ての設計判断をプログラマ個人へ委ね、利用者確認をしないこと。

答え・解説 正答：ウ

ア：要件定義は実装前の要求整理を中心とする。

イ：要件定義の目的ではない。

ウ：設計・実装の前提となる要求を合意可能な形に整理する工程である。

エ：利用者・関係者の要求確認と合意が重要である。

総合解説：要件定義では機能だけでなく、性能、可用性、セキュリティ、運用などの非機能要件も明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0072 1-3 アルゴリズム・開発技術 > システム開発・設計・テスト | 難易度：標準

保守しやすいモジュール設計の一般的な方針として、最も適切なものはどれか。

ア：一つのモジュールに無関係な全機能を詰め込み、他モジュールの内部データへ直接アクセスする。

イ：全モジュールでグローバル変数を共有し、インタフェースを定義しない。

ウ：責務に関係なくモジュール数を1個に固定する。

エ：各モジュールの責務をまとまり良くし（高凝集）、モジュール間の依存を必要最小限にする（低結合）。

答え・解説 正答：エ

ア：低凝集・高結合となり変更影響が広がりやすい。

イ：依存関係が不明確になり保守性が低下する。

ウ：適切な責務分割ができず保守性を損なうことがある。

エ：変更影響を局所化し、理解・テスト・再利用をしやすくする。

総合解説：高凝集・低結合はソフトウェア設計の基本原則である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0073 1-3 アルゴリズム・開発技術 > システム開発・設計・テスト | 難易度：基礎

オブジェクト間のメッセージのやり取りを時間順に表現するUML図はどれか。

ア：シーケンス図

イ：クラス図

ウ：配置図

エ：状態機械図

答え・解説 正答：ア

ア：シーケンス図はライフラインとメッセージを用いて相互作用の時系列を表す。

イ：クラスの属性・操作・関係など静的構造を表す。

ウ：ノードや実行環境への配置を表す。

エ：状態と遷移を中心に表す。

総合解説：UMLは目的に応じて静的構造と動的振る舞いを異なる図で表現する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0074 1-3 アルゴリズム・開発技術 > システム開発・設計・テスト | 難易度：標準

入力値として1～100の整数を受け付け、それ以外はエラーとする機能を同値分割法でテストする。基本的な同値クラスの分け方として最も適切なものはどれか。

ア：1～100の全整数を必ず一つずつ全件テストし、クラス分けは行わない。

イ：1～100の有効クラス、0以下の無効クラス、101以上の無効クラスに分ける。

ウ：入力値を奇数クラスと偶数クラスだけに分ける。

エ：有効範囲を1～50と51～100に分け、範囲外は同値クラスとして扱わない。

答え・解説 正答：イ

ア：同値分割法は同じ振る舞いを期待できる入力をクラス化し、代表値で効率的に確認する。全件列挙は同値分割の考え方ではない。

イ：仕様上の振る舞いが「有効」「下限未満で無効」「上限超過で無効」と分かれるため、この3クラスが基本である。

ウ：奇偶で処理が変わる仕様は示されていないため、仕様上の同値クラスにならない。

エ：1～100は同じ有効処理を受けると考えられ、内部で恣意的に二分する一方、範囲外を無視するのは不適切である。

総合解説：同値分割はテストケースを効率化する手法で、境界値分析と組み合わせると欠陥を見つけやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0075 1-3 アルゴリズム・開発技術 > システム開発・設計・テスト | 難易度：応用

入力可能な整数が1～100という仕様に対して、境界値分析を重視したテストデータの組合せとして最も適切なものはどれか。

ア：10、20、30、40だけ

イ：1だけ

ウ：0、1、2、99、100、101

エ：50、51だけ

答え・解説 正答：ウ

ア：範囲内の中間値だけで境界を検証できない。

イ：下限のみで上限や境界外を確認できない。

ウ：下限・上限の直前、境界、その直後を確認することで境界付近の不具合を検出しやすい。

エ：中央付近だけで境界条件を検証できない。

総合解説：境界条件では「<」と「<=」の誤りなどが発生しやすいため、境界直前・境界・直後を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0076 1-3 アルゴリズム・開発技術 > システム開発・設計・テスト | 難易度：標準

分岐網羅（ブランチカバレッジ）の説明として、最も適切なものはどれか。

ア：全ての入力値の組合せを必ず試す。

イ：全てのソースコード行を一度実行すれば、条件に関係なく必ず100%になる。

ウ：実行せずコードを読むだけで達成できる。

エ：各判定の真・偽の結果を少なくとも一度ずつ実行することを目標とする。

答え・解説 正答：エ

ア：入力空間全体を試すこととは異なる。

イ：文網羅と分岐網羅は異なる。

ウ：カバレッジは実行結果に基づいて測定する。

エ：制御フロー上の各分岐方向を実行するカバレッジである。

総合解説：分岐網羅は文網羅より強い基準だが、全条件組合せや全パスを保証するものではない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0077 1-3 アルゴリズム・開発技術 > システム開発・設計・テスト | 難易度：基礎

回帰テスト（リグレッションテスト）の主な目的はどれか。

- ア：変更や修正によって、既存の正常機能に新たな不具合が生じていないか確認する。
- イ：新規要件を一切確認せずにリリースすること。
- ウ：バックアップを暗号化すること。
- エ：利用者アカウントを全削除すること。

答え・解説 正答：ア

ア：修正箇所だけでなく影響範囲を再確認し、意図しない退行を検出する。

イ：回帰テストは変更影響を確認するためのテストである。

ウ：テスト目的とは異なる。

エ：回帰テストの目的ではない。

総合解説：自動テストを整備すると、頻繁な変更に対する回帰確認を継続しやすくなる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0078 1-3 アルゴリズム・開発技術 > システム開発・設計・テスト | 難易度：標準

トップダウン方式の結合テストで、まだ実装されていない下位モジュールの代わりに呼び出される仮のモジュールは何か。

- ア：ドライバ
- イ：スタブ
- ウ：コンパイラ
- エ：ハイパーバイザ

答え・解説 正答：イ

ア：一般にボトムアップ結合で上位モジュールの代わりに下位を呼び出す。

イ：上位モジュールからの呼出しに対して、下位モジュールの代替として必要最小限の応答を返す。

ウ：ソースコードを翻訳するツールである。

エ：仮想マシンを管理するソフトウェアである。

総合解説：結合テストでは、トップダウンでスタブ、ボトムアップでドライバを使うという対応を理解する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0079 1-3 アルゴリズム・開発技術 > システム開発・設計・テスト | 難易度：応用

単体テスト対象が外部決済APIを呼び出す。実APIを毎回利用すると料金・不安定性・再現性の問題がある。最も適切なテスト設計はどれか。

ア：単体テストを全て省略し、本番環境でだけ動作確認する。

イ：外部APIの仕様に関係なく常に成功したと仮定する。

ウ：外部APIとのインタフェースを抽象化し、単体テストではモックやスタブ等のテストダブルに置き換える。

エ：テストごとに本番決済を実行し、結果を手作業で取り消す。

答え・解説 正答：ウ

ア：欠陥の早期検出と再現性が低下する。

イ：異常系を検証できず品質が低下する。

ウ：外部依存を制御でき、異常応答やタイムアウトも再現しやすくなる。

エ：コストや副作用が大きく、単体テストとして不適切である。

総合解説：テストダブルは依存先を制御して単体テストの独立性・速度・再現性を高める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0080 1-3 アルゴリズム・開発技術 > システム開発・設計・テスト | 難易度：標準

コードレビューの効果として、最も適切なものはどれか。

ア：レビューを行えば動的テストは一切不要になる。

イ：レビューはコードの行数を増やすことだけを目的とする。

ウ：レビューでは要件や設計との整合性を確認してはいけない。

エ：実行前に、設計逸脱、可読性、潜在的欠陥、セキュリティ上の問題などを複数の視点で発見できる。

答え・解説 正答：エ

ア：レビューだけでは実行時の挙動を全て確認できない。

イ：品質向上と欠陥発見が主目的である。

ウ：要件・設計との整合性も重要な観点である。

エ：動的テストとは異なる静的な検証として、早期の欠陥発見や知識共有に有効である。

総合解説：レビューとテストは相補的であり、異なる種類の欠陥を早期に見つける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0081 1-3 アルゴリズム・開発技術 > 開発プロセス・品質管理 | 難易度：基礎

ウォーターフォール型開発の一般的な特徴として、最も適切なものはどれか。

- ア：要件定義、設計、実装、テストなどの工程を順次進め、各工程の成果物を次工程へ引き継ぐ。
- イ：要求を一切定義せず毎日ランダムに機能を実装する。
- ウ：完成したシステムを先に運用し、その後に要件を決める。
- エ：設計やテスト工程を持たないことが定義である。

答え・解説 正答：ア

ア：工程を明確に区切り、レビューや承認を通して進める計画駆動型の代表例である。

イ：工程や成果物を計画的に進める特徴と合わない。

ウ：一般的な工程順序と逆である。

エ：ウォーターフォールでも設計・テスト工程を持つ。

総合解説：ウォーターフォールは要件が比較的安定した案件で管理しやすい一方、後工程での大幅変更はコストが高くなりやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0082 1-3 アルゴリズム・開発技術 > 開発プロセス・品質管理 | 難易度：標準

ScrumにおけるProduct Ownerの役割として、最も適切なものはどれか。

- ア：全コードを一人で実装することが必須である。
- イ：プロダクト価値の最大化に責任を持ち、Product Backlogを効果的に管理する。
- ウ：開発チームの上司として個々の作業方法を逐一命令する。
- エ：データセンタの物理警備だけを担当する。

答え・解説 正答：イ

ア：実装を一人で担当する役割ではない。

イ：何を作るかの優先順位と価値に責任を持つ役割である。

ウ：Scrumでは自己管理型のチームを前提とし、POは価値とバックログ管理に責任を持つ。

エ：Scrumの役割ではない。

総合解説：アジャイルでは短い反復で価値を検証し、優先順位を継続的に見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0083 1-3 アルゴリズム・開発技術 > 開発プロセス・品質管理 | 難易度：基礎

継続的インテグレーション（CI）の説明として、最も適切なものはどれか。

ア：リリース直前まで各開発者の変更を一度も統合しない。

イ：テストを全て手作業に限定し、自動化を禁止する。

ウ：変更を頻繁に共有リポジトリへ統合し、自動ビルドや自動テストで統合問題を早期検出する。

エ：ソースコード管理を行わず、完成物だけをメールで配布する。

答え・解説 正答：ウ

ア：CIの考え方と逆である。

イ：CIでは自動ビルド・自動テストが重要な構成要素である。

ウ：小さな変更を継続的に統合することで、長期間の分岐による衝突や不具合を減らしやすい。

エ：変更の統合と再現性を管理しにくい。

総合解説：CIは品質フィードバックを早くし、継続的デリバリや継続的デプロイの基盤になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0084 1-3 アルゴリズム・開発技術 > 開発プロセス・品質管理 | 難易度：標準

ソフトウェア構成管理の目的として、最も適切なものはどれか。

ア：本番環境の変更を記録せず自由に行う。

イ：全ての版を同じファイル名で上書きし履歴を消す。

ウ：ソースコード以外の設定や依存ライブラリは管理対象に含めない。

エ：ソースコード、設定、ライブラリ、文書などの構成項目と版を識別し、変更履歴と組合せを追跡可能にする。

答え・解説 正答：エ

ア：追跡性を損ない構成管理の目的に反する。

イ：版管理ができなくなる。

ウ：実行環境を再現するには設定・依存関係等も重要である。

エ：再現可能なビルドや障害時の原因追跡、リリース管理に必要である。

総合解説：構成管理では何が本番に入っているかを一意に識別し、変更の承認と追跡を可能にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0085 1-3 アルゴリズム・開発技術 > 開発プロセス・品質管理 | 難易度：応用

大規模なWebサービスで新バージョンの障害影響を限定したい。最初に一部の利用者やサーバへだけ新バージョンを配布し、指標を確認して段階的に拡大する方式として最も適切なものはどれか。

ア：カナリアリリース

イ：ビッグバンリリース

ウ：コードをリリースせず紙に印刷する方式

エ：全サーバを停止したまま監視だけを行う方式

答え・解説 正答：ア

ア：少数へ先行投入して実環境の指標を観察し、問題がなければ対象を広げることでリスクを抑える。

イ：全対象を一度に切り替えるため、段階的な影響限定とは異なる。

ウ：デプロイ戦略ではない。

エ：新バージョンの実環境検証にならない。

総合解説：リリース戦略にはカナリア、ブルーグリーン、ローリングなどがあり、可用性とロールバック要件で選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0086 1-3 アルゴリズム・開発技術 > 開発プロセス・品質管理 | 難易度：標準

ソフトウェアの「保守性」を高める施策として、最も適切なものはどれか。

ア：同じ処理を多数の場所へコピーして、どこを直せばよいかわからない状態にする。

イ：責務を適切に分割し、可読性の高いコード、明確なインタフェース、自動テストを整備する。

ウ：設計意図や依存関係を全て隠し、文書やテストを削除する。

エ：全機能を一つの巨大な関数へ集約する。

答え・解説 正答：イ

ア：重複は変更漏れを増やし保守性を低下させる。

イ：変更の理解・分析・修正・確認を行いやすくすることで保守性向上につながる。

ウ：理解と変更を困難にする。

エ：責務分離が失われ変更影響が大きくなりやすい。

総合解説：品質特性は一つの指標だけでなく、性能、信頼性、セキュリティ、保守性など複数観点で評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0087 1-3 アルゴリズム・開発技術 > 開発プロセス・品質管理 | 難易度：基礎

ソフトウェア品質指標としての欠陥密度の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア：開発者数を欠陥数で割った値だけを指す。
- イ：CPU使用率の最大値を表す。
- ウ：一定規模当たりの検出欠陥数を表す指標。
- エ：全テストケースの実行時間を表す。

答え・解説 正答：ウ

- ア：一般的な欠陥密度の定義ではない。
 - イ：性能指標であり欠陥密度ではない。
 - ウ：例えばKLOCや機能規模などを分母にして欠陥数を正規化し、比較に利用する。
 - エ：テスト所要時間と欠陥密度は別である。
- 総合解説：品質指標を比較するときは分母の規模尺度、工程、製品特性を揃える必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0088 1-3 アルゴリズム・開発技術 > 開発プロセス・品質管理 | 難易度：標準

本番障害のリスクを下げるため、変更単位を小さくし、頻繁に自動テストとリリースを行う利点として最も適切なものはどれか。

- ア：変更回数が増えるほど必ず障害が増えるので、自動化とは無関係である。
- イ：変更履歴を残さなくても原因特定が容易になる。
- ウ：テストを省略できることが最大の利点である。
- エ：一回の変更範囲が小さくなり、問題発生時の原因特定やロールバックを行いやすい。

答え・解説 正答：エ

- ア：小さな変更と自動化によりリスクを管理できる場合がある。
 - イ：変更追跡は原因分析に重要である。
 - ウ：頻繁な変更ほど自動テストによる品質確認が重要である。
 - エ：差分が小さいほど影響範囲を把握しやすく、フィードバックも早く得られる。
- 総合解説：小さなバッチ、短いフィードバックループ、自動化は継続的デリバリの重要な考え方である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0089 1-3 アルゴリズム・開発技術 > 開発プロセス・品質管理 | 難易度：応用

障害原因を分析すると、全障害の70%が「入力検証不足」と「DBスキーマ変更漏れ」の二分類に集中していた。再発防止策の優先順位を決める方法として最も適切なものはどれか。

ア：原因別件数と影響を可視化し、頻度・重大度の高い原因からプロセス改善や自動チェックを実施する。

イ：原因分類をやめ、全障害を偶然として扱う。

ウ：件数の多い原因ほど調査せず放置する。

エ：障害件数だけを隠し、品質指標を測定しない。

答え・解説 正答：ア

ア：パレートの的に主要原因へ対策資源を集中し、実施後に指標で効果を再評価する。

イ：再発傾向を把握できず改善につながらない。

ウ：高頻度原因は改善効果が大きい可能性がある。

エ：測定とフィードバックが品質改善に必要である。

総合解説：品質管理では欠陥データを収集し、根本原因を分析してプロセスへフィードバックする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0090 1-3 アルゴリズム・開発技術 > 開発プロセス・品質管理 | 難易度：標準

DevOpsの考え方として、最も適切なものはどれか。

ア：開発と運用の情報共有を禁止して責任範囲を完全に分断する。

イ：開発と運用が協働し、自動化と継続的なフィードバックを通じて安全かつ迅速に価値を提供する。

ウ：本番監視を廃止し、障害を利用者からの申告だけで知る。

エ：自動化を避け、全ての反復作業を必ず手作業にする。

答え・解説 正答：イ

ア：協働とフィードバックというDevOpsの狙いに反する。

イ：組織の壁を減らし、ビルド・テスト・デプロイ・監視を継続的に改善する。

ウ：運用からのフィードバックがなくなる。

エ：反復作業の自動化はDevOpsの重要な要素である。

総合解説：DevOpsは特定ツール名ではなく、開発・運用の協働、測定、自動化、継続改善を重視する実践の集合である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0091 1-4 マネジメント>プロジェクトマネジメント | 難易度：基礎

プロジェクトでWBS（Work Breakdown Structure）を作成する主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア：プロジェクトの成果物や作業を、管理可能な単位へ階層的に分解する。

イ：プロジェクト終了後の障害原因だけを時系列に記録する。

ウ：供給者の財務諸表だけを比較して調達先を決定する。

エ：利用者からの問合せを単一窓口で受け付ける。

答え・解説 正答：ア

ア：WBSはプロジェクトのスコープを成果物や作業の単位へ分解し、見積り・割当て・進捗管理の基礎にする。

イ：これは障害管理や事後分析に近い活動であり、WBSの主目的ではない。

ウ：調達先選定の一要素になり得るが、WBSそのものの目的ではない。

エ：これはサービスデスクの役割であり、WBSとは異なる。

総合解説：WBSは、プロジェクトで実施すべき範囲を漏れなく把握し、作業単位で責任・期間・コストを管理するための基盤となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0092 1-4 マネジメント>プロジェクトマネジメント | 難易度：標準

あるプロジェクトのネットワーク図で、経路Aの所要日数は18日、経路Bは22日、経路Cは20日であり、各経路は開始点から終了点までを結ぶ。ほかに制約がないとき、最も適切な判断はどれか。

ア：経路Aがクリティカルパスであり、4日の遅延まで終了日に影響しない。

イ：経路Bがクリティカルパスであり、その経路の作業が1日遅れると原則として全体終了も1日遅れる。

ウ：経路Cがクリティカルパスであり、2日の余裕がある。

エ：三つの経路の平均20日がプロジェクト期間になる。

答え・解説 正答：イ

ア：最長経路はBなので、Aはクリティカルパスではない。

イ：開始から終了までの最長経路がクリティカルパスとなり、総余裕が0なら遅延が全体に波及する。

ウ：CはBより2日短く、通常は2日の余裕を持つ側である。

エ：プロジェクト期間は経路所要時間の平均ではなく、依存関係を考慮した最長経路で決まる。

総合解説：クリティカルパス法では、開始点から終了点までの最長所要時間の経路がプロジェクト最短完了期間を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0093 1-4 マネジメント>プロジェクトマネジメント | 難易度:標準

ある時点でPV（計画価値）=100、EV（出来高）=80、AC（実コスト）=90である。EVMによる評価として、最も適切なものはどれか。

ア：SV=+20、CV=+10なので、進捗もコストも計画より良い。

イ：SV=-10、CV=-20なので、進捗は10遅れ、コストは20超過している。

ウ：SV=-20、CV=-10なので、進捗は計画より遅れ、出来高に対してコストも超過している。

エ：SV=+10、CV=-20なので、進捗は先行しているがコスト超過である。

答え・解説 正答：ウ

ア：SVは $EV-PV=80-100=-20$ 、CVは $EV-AC=80-90=-10$ であり、符号が逆である。

イ：SVとCVの差し引く相手が入れ替わっている。

ウ：SV=-20は進捗遅延、CV=-10はコスト効率が計画より悪いことを示す。

エ：PVとACを直接比較してもSV・CVにはならない。

総合解説：EVMでは $SV=EV-PV$ 、 $CV=EV-AC$ で評価する。負のSVはスケジュール遅延、負のCVはコスト超過側を示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0094 1-4 マネジメント>プロジェクトマネジメント | 難易度:応用

プロジェクトで、特定の機器故障による損失リスクを第三者の保険契約によって金銭的に負担してもらう方針を採用した。この対応に最も近いものはどれか。

ア：回避：リスクの原因となる活動自体を計画から除外する。

イ：軽減：発生確率又は影響を小さくする対策を実施する。

ウ：受容：発生しても特段の事前対策をせず結果を受け入れる。

エ：移転：リスクによる損失負担の全部又は一部を契約などで第三者へ移す。

答え・解説 正答：エ

ア：回避はリスク源をなくす対応であり、保険加入とは異なる。

イ：軽減は確率・影響そのものを小さくする対応であり、保険で損失負担者を変えることは異なる。

ウ：受容はリスクを認識しつつ保持する対応であり、保険契約による負担移転とは異なる。

エ：保険は損失の金銭的負担を第三者へ移す代表的なリスク移転の例である。

総合解説：リスク対応では、回避・軽減・移転・受容などをリスクの性質と費用対効果に応じて選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0095 1-4 マネジメント> プロジェクトマネジメント | 難易度：標準

開発中、利用部門から「便利そうなので検索機能を追加してほしい」と要求された。スコープと納期への影響が未評価である。このとき最も適切な対応はどれか。

ア：変更要求として記録し、影響を評価・承認した上で、必要ならスコープやスケジュール等のベースラインを更新する。

イ：利用部門の要求なので、影響評価を省略して直ちに実装する。

ウ：当初計画にない要求は理由を問わず全て拒否する。

エ：実装後に工数だけ記録し、計画値は変更しない。

答え・解説 正答：ア

ア：正式な変更管理により影響を可視化し、承認後に計画へ反映するのが適切である。

イ：無評価の追加はスコープクリープや納期・品質悪化を招く。

ウ：価値のある変更まで一律拒否するのは適切でない。

エ：承認された変更を計画に反映しないと、実績との比較基準が崩れる。

総合解説：プロジェクトでは変更を禁止するのではなく、変更要求を記録し、影響評価と承認を経て統合的に管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0096 1-4 マネジメント> プロジェクトマネジメント | 難易度：基礎

プロジェクトのコミュニケーション計画で定める内容として、最も適切なものはどれか。

ア：全ステークホルダに同じ詳細度の情報を同じ頻度で送ることだけを定める。

イ：誰に、どの情報を、いつ・どの頻度で、どの手段で伝えるかを、情報ニーズや役割に応じて定める。

ウ：機密情報を含む全成果物を社外にも常時公開することを定める。

エ：進捗情報はプロジェクト終了時だけ共有することを定める。

答え・解説 正答：イ

ア：情報ニーズは役割ごとに異なるため、画一的な情報提供は過不足を生じやすい。

イ：受け手、内容、頻度、手段、責任などを明確にすることで情報伝達の漏れや混乱を防ぐ。

ウ：機密性やアクセス権を無視した公開は不適切である。

エ：適切な意思決定にはプロジェクト中の継続的な情報共有が必要である。

総合解説：コミュニケーションは、ステークホルダごとの情報ニーズと適切なチャネル・頻度を設計して管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0097 1-4 マネジメント>プロジェクトマネジメント | 難易度：応用

ある作業の楽観値O=4日、最可能値M=7日、悲観値P=16日とする。PERTの代表的な三点見積り（ $O+4M+P$ ）/6で期待所要時間を求めると何日か。

ア：6日。OとMだけを平均した値である。

イ：7日。最可能値だけを期待値とした値である。

ウ：8日。（ $4+4\times 7+16$ ）÷6で求める。

エ：9日。O、M、Pの単純平均である。

答え・解説 正答：ウ

ア：PERTの加重平均式では4Mの重みを考慮するため6日にはならない。

イ：最可能値は重要だが、楽観値・悲観値も加味する。

ウ：計算は $(4+28+16)/6=48/6=8$ 日となる。

エ：単純平均は $(4+7+16)/3=9$ 日だが、設問指定のPERT式ではない。

総合解説：三点見積りは不確実性を楽観値・最可能値・悲観値で表現し、代表的なPERT式では最可能値に重みを置く。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0098 1-4 マネジメント>プロジェクトマネジメント | 難易度：標準

当初は「詳細設計完了後に実装開始」としていたが、納期短縮のため、確定した部分から設計と実装を一部並行して進めることにした。この手法の説明として最も適切なものはどれか。

ア：クラッシングであり、必ず追加費用なしで期間を短縮できる。

イ：リスク受容であり、スケジュール短縮手法ではない。

ウ：ボトムアップ見積りであり、作業を細分化して工数を足し上げる手法である。

エ：ファストトラッキングであり、期間短縮が期待できる一方、手戻りや再作業のリスクが高まる。

答え・解説 正答：エ

ア：クラッシングは資源追加などで期間を短縮する考え方であり、並行化とは異なる。

イ：リスク対応の分類ではなく、スケジュール短縮の技法である。

ウ：見積り手法ではない。

エ：本来順次行う活動を重ねて実施するのがファストトラッキングで、変更時の手戻りリスクが増える。

総合解説：スケジュール短縮では、資源投入によるクラッシングと、活動の並行化によるファストトラッキングを区別する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0099 1-4 マネジメント> プロジェクトマネジメント | 難易度：基礎

プロジェクト品質マネジメントにおける品質保証の説明として、最も適切なものはどれか。
ア：定めたプロセスが適切に実施され、品質要求を満たせる仕組みになっているかを確認・改善する活動である。
イ：完成した成果物の欠陥を検査で見つける活動だけを指す。
ウ：予算超過の原因だけを分析する活動である。
エ：供給者との契約価格を決定する活動である。

答え・解説 正答：ア

ア：品質保証はプロセスや仕組みに焦点を当て、品質を作り込める状態を確保する。
イ：成果物の検査・測定は品質管理の代表的活動であり、品質保証だけの説明ではない。
ウ：これはコスト管理の論点である。
エ：これは調達・契約の論点である。
総合解説：品質保証はプロセス中心、品質管理は成果物の測定・検査中心という観点で整理すると理解しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0100 1-4 マネジメント> プロジェクトマネジメント | 難易度：標準

発注範囲と仕様が十分に確定しており、発注者が契約金額の予見可能性を重視している。一般に固定価格型の契約を採用した場合の特徴として、最も適切なものはどれか。
ア：実費が増えた分を全て発注者が自動的に追加負担するので、供給者にコストリスクはない。
イ：契約条件の範囲内では供給者側がコスト超過リスクをより負いやすく、発注者は支払額を見通しやすい。
ウ：仕様が未確定で変更頻度が高いほど、固定価格契約は必ず有利になる。
エ：契約方式を選んでもリスク配分には一切影響しない。

答え・解説 正答：イ

ア：実費精算型に近い説明であり、固定価格型とは異なる。
イ：仕様が安定している場合、固定価格は価格予見性を高め、供給者側にコスト効率化の責任が寄りやすい。
ウ：仕様不確実性が高い場合は変更契約やリスク増大の問題が生じやすい。
エ：契約方式は価格・責任・リスク配分に影響する。
総合解説：調達では、仕様の確定度やリスクを踏まえて契約方式を選び、発注者と供給者のリスク分担を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0101 1-4 マネジメント> サービスマネジメント | 難易度: 基礎

SLA (Service Level Agreement) の説明として、最も適切なものはどれか。

ア: サービス提供者内部だけで使用する障害対応手順書である。

イ: サービスに使う全ての構成品目の技術仕様書である。

ウ: 提供するサービスと合意したサービスレベル・パフォーマンスを、提供者と顧客の間で明確にする合意文書である。

エ: ソフトウェアの著作権帰属だけを定める契約書である。

答え・解説 正答: ウ

ア: 障害対応手順は運用文書であり、SLAの定義ではない。

イ: 構成情報は構成管理の対象であり、SLAそのものではない。

ウ: SLAは顧客とサービス提供者の間でサービス内容や目標レベルを合意する文書である。

エ: 知的財産の契約条項とは目的が異なる。

総合解説: SLAでは、可用性、応答時間、サービス時間など測定可能なサービスレベル目標を明確化し、監視・レビューにつなげる。

対象: 2026年度 / 基準日 2026-09-02

0102 1-4 マネジメント> サービスマネジメント | 難易度: 標準

同じデータベース接続エラーが複数回発生している。まず利用者影響を早く解消するためサービスを復旧し、その後、再発防止のため根本原因を分析する。この二つの活動の対応関係として最も適切なものはどれか。

ア: 前者も後者も構成管理である。

イ: 前者が問題管理、後者がインシデント管理である。

ウ: 前者がサービスレベル管理、後者が調達管理である。

エ: 前者がインシデント管理、後者が問題管理である。

答え・解説 正答: エ

ア: 構成管理はCIや構成情報を管理する活動で、復旧と根本原因分析の区別ではない。

イ: 役割が逆である。インシデント管理は早期復旧、問題管理は根本原因・再発防止を重視する。

ウ: サービスレベル管理や調達管理の主目的ではない。

エ: 利用者へのサービス復旧を優先するのがインシデント管理、原因分析・再発防止が問題管理である。

総合解説: インシデント管理はサービスを正常状態へ早く戻すこと、問題管理はインシデントの根本原因を特定して再発を防ぐことに重点がある。

対象: 2026年度 / 基準日 2026-09-02

0103 1-4 マネジメント> サービスマネジメント | 難易度: 標準

本番DBサーバの設定変更を行う前の変更管理として、最も適切なものはどれか。

ア: 変更要求を記録し、リスク・事業利益・実現可能性・影響を評価して承認し、失敗時の切戻しも計画する。

イ: 担当者が有効だと判断すれば、記録や承認をせず直ちに変更する。

ウ: 変更実施後に初めて影響範囲を調査する。

エ: 全ての変更を一律に禁止し、緊急時も変更しない。

答え・解説 正答: ア

ア: 変更管理では変更要求の記録・分類、リスク等の評価、承認、試験、ロールバック計画などを行う。

イ: 無統制な変更は障害や追跡不能の原因となる。

ウ: 影響評価は原則として実施前に行う必要がある。

エ: 必要な変更まで禁止するとサービス改善や障害対応ができない。

総合解説: 変更管理の目的は変更を止めることではなく、変更に伴うリスクを統制しながら安全に実施することである。

対象: 2026年度 / 基準日 2026-09-02

0104 1-4 マネジメント> サービスマネジメント | 難易度: 標準

サービスマネジメントにおける構成管理の活動として、最も適切なものはどれか。

ア: 障害の根本原因だけを分析して既知の誤りを登録する。

イ: サーバ、ソフトウェア、設定などの構成品目(CI)を識別し、関係や版を記録・制御・追跡して構成情報の正確性を維持する。

ウ: 顧客との契約金額だけを管理する。

エ: 新規サービスの市場価格を決定する。

答え・解説 正答: イ

ア: これは問題管理に近い活動である。

イ: 構成管理はCIの識別、記録、制御、追跡、検証を通じてサービス構成を把握可能にする。

ウ: 契約・財務管理だけの活動ではない。

エ: 価格設定は経営・サービス戦略側の論点である。

総合解説: 正確な構成情報は、変更影響分析、障害切分け、監査など多くの運用活動の基盤となる。

対象: 2026年度 / 基準日 2026-09-02

0105 1-4 マネジメント> サービスマネジメント | 難易度: 基礎

サービスデスクの役割として、最も適切なものはどれか。

ア: 全てのシステム変更を自ら実装する専門開発部門である。

イ: 会計監査だけを担当する独立組織である。

ウ: 利用者からの問合せや障害連絡の単一窓口となり、記録、一次対応、適切な担当への引継ぎなどを行う。

エ: 経営戦略の策定だけを行う取締役会の機能である。

答え・解説 正答: ウ

ア: サービスデスクは開発の全作業を担う部門ではない。

イ: システム監査とは別の役割である。

ウ: SPOCとして利用者との窓口を集約し、対応状況の一元管理に寄与する。

エ: 経営意思決定機関ではない。

総合解説: サービスデスクは利用者との接点を一本化し、問合せ・インシデントを記録して適切な解決経路へつなぐ。

対象: 2026年度 / 基準日 2026-09-02

0106 1-4 マネジメント> サービスマネジメント | 難易度: 標準

ある月の合意サービス時間が720時間で、そのうち計画外停止が3.6時間あった。単純に「稼働時間÷合意サービス時間」で可用性を求めると、最も適切な値はどれか。

ア: 99.0%。停止時間を720時間の1%とみなした値である。

イ: 99.2%。停止時間を6時間として計算した値である。

ウ: 99.9%。停止時間を0.72時間として計算した値である。

エ: 99.5%。(720-3.6)÷720×100で求める。

答え・解説 正答: エ

ア: $3.6/720=0.5\%$ なので、停止率1%ではない。

イ: 設問の停止時間は3.6時間であり6時間ではない。

ウ: 0.72時間の停止なら99.9%だが、設問条件と異なる。

エ: 稼働時間716.4時間を720時間で割ると99.5%になる。

総合解説: 可用性指標では、測定対象期間・除外する計画停止・SLA上の定義を明確にして計算することが重要である。

対象: 2026年度 / 基準日 2026-09-02

0107 1-4 マネジメント> サービスマネジメント | 難易度: 応用

アクセス数が毎月増加しており、CPU使用率がピーク時90%を超える日が増えている。サービス停止が起きる前に行う容量・能力管理として、最も適切なものはどれか。

ア: 需要の傾向と性能データを分析し、将来需要を予測して必要な資源増強や構成変更を計画する。

イ: 障害が発生するまで何もせず、発生後にだけ原因を調べる。

ウ: CPU使用率の測定をやめ、利用者の体感だけで判断する。

エ: 全てのサービスレベル目標を削除して負荷を問題にしない。

答え・解説 正答: ア

ア: 容量・能力管理は需要と資源利用を監視・予測し、将来のサービス要求を満たせるよう先行して計画する。

イ: 事後対応だけでは性能劣化を予防できない。

ウ: 定量的な監視指標を捨てると計画精度が落ちる。

エ: 目標を削除することはサービス要求を満たす管理ではない。

総合解説: 容量・能力管理は現在の使用量だけでなく将来需要を見据え、性能とコストのバランスを取りながら資源を計画する。

対象: 2026年度 / 基準日 2026-09-02

0108 1-4 マネジメント> サービスマネジメント | 難易度: 応用

災害対策で「障害発生後4時間以内にサービスを再開し、失われるデータは最大15分前までに抑える」という目標を定めた。RTOとRPOの対応として最も適切なものはどれか。

ア: RTO=15分、RPO=4時間である。

イ: RTO=4時間、RPO=15分である。

ウ: RTOもRPOも4時間である。

エ: RTOもRPOも15分である。

答え・解説 正答: イ

ア: RTOとRPOが逆である。

イ: RTOは復旧までの目標時間、RPOはどの時点までのデータを復元するかという目標復旧時点を表す。

ウ: サービス再開時間と許容データ損失は異なる指標である。

エ: 同様に二つの目標は同一ではない。

総合解説: RTOは「どれだけ早く復旧するか」、RPOは「どこまで過去のデータを戻せればよいか」を表す。

対象: 2026年度 / 基準日 2026-09-02

0109 1-4 マネジメント> サービスマネジメント | 難易度: 基礎

サービスカタログの説明として、最も適切なものはどれか。

ア: 障害ログを保存するためのデータベースである。

イ: プロジェクトのWBSを一覧化した文書である。

ウ: 顧客に提供するサービスについて、意図した成果やサービス間の依存関係などを含む情報を整理した文書化情報である。

エ: 財務諸表の一種である。

答え・解説 正答: ウ

ア: 障害記録はインシデント管理等で扱うが、サービスカタログの定義ではない。

イ: WBSはプロジェクト作業の分解構造である。

ウ: サービスカタログは提供サービスを理解・管理するための情報を体系化する。

エ: 会計書類ではない。

総合解説: サービスカタログは提供中・提供予定のサービスの内容を明確にし、利用者・提供者双方の共通理解を支える。

対象: 2026年度 / 基準日 2026-09-02

0110 1-4 マネジメント> サービスマネジメント | 難易度: 標準

月次レビューでSLA未達が継続していることが分かった。継続的改善として最も適切な対応はどれか。

ア: 未達の事実を記録せず、翌月の結果だけを見る。

イ: SLA目標を実績に合わせて無条件に下げる。

ウ: 原因を特定せずに担当者を交代させるだけで終了する。

エ: 実績と目標のギャップを分析し、改善策を承認・実施し、KPI等で効果を確認して必要に応じて見直す。

答え・解説 正答: エ

ア: 継続的改善には測定・記録が必要である。

イ: 目標変更が必要な場合もあるが、原因分析なしの引下げは改善とはいえない。

ウ: 人員変更だけでは根本原因や改善効果を確認できない。

エ: 測定、分析、改善、評価を繰り返すことでサービスの有効性を継続的に高める。

総合解説: 継続的改善では、現状と目標の差を定量化し、原因と改善策を結び付け、実施後の効果を再評価する。

対象: 2026年度 / 基準日 2026-09-02

0111 1-4 マネジメント＞システム監査・内部統制 | 難易度：基礎

システム監査人の独立性・客観性を確保する観点から、最も適切なものはどれか。

ア：監査対象システムの開発責任を直接担った者だけで監査チームを構成することを避け、利害関係から独立した立場で評価できる体制を整える。

イ：監査対象部門の希望する結論に合わせて監査手続を変更する。

ウ：監査結果の根拠を残さず、監査人の経験だけで結論を決める。

エ：監査対象部門が不利益を受けないよう、重要な指摘事項を報告書から削除する。

答え・解説 正答：ア

ア：自己監査によるバイアスを避け、独立した立場から客観的に評価することが重要である。

イ：被監査側の意向で結論を変えると客観性が失われる。

ウ：結論は十分かつ適切な監査証拠に基づく必要がある。

エ：重要事項を意図的に除外することは適切な監査報告ではない。

総合解説：システム監査では、組織上・精神上の独立性と客観性を保持し、正当な注意をもって監査を実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0112 1-4 マネジメント＞システム監査・内部統制 | 難易度：標準

監査人がアクセス権管理を評価する際の監査証拠として、最も適切なものはどれか。

ア：担当者の印象だけを口頭で聞き、記録を残さない。

イ：権限一覧、承認記録、設定値、アクセスログなどを入手し、監査目的に照らして信頼性・十分性を評価し監査調書に記録する。

ウ：監査対象部門が「問題ない」と回答した事実だけで結論を確定する。

エ：監査手続を実施せず、前年の監査報告書をそのまま今年の証拠にする。

答え・解説 正答：イ

ア：主観的な印象だけでは証拠としての十分性・適切性が不足する。

イ：複数の客観的資料を入手・評価し、監査手続と結論の根拠を監査調書に残すのが適切である。

ウ：経営者・担当者の陳述は証拠の一つになり得るが、それだけで十分とは限らない。

エ：状況が変化している可能性があり、当期の監査手続が必要である。

総合解説：監査証拠は監査意見・指摘の根拠となるため、監査目的に対する十分性・適切性を評価し、追跡可能な形で記録する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0113 1-4 マネジメント>システム監査・内部統制 | 難易度：標準

システム監査報告書で「退職者アカウントの削除が遅延している」と改善提案を行った。フォローアップとして最も適切なものはどれか。

ア：報告書を提出した時点で監査は完全に終了するので、その後は確認しない。

イ：監査人が自ら対象部門のアカウントを削除し、業務責任も引き受ける。

ウ：監査対象部門が策定した改善計画について、必要な措置が適切かつ適時に実施されているかを確認する。

エ：翌年まで改善状況を一切確認せず、指摘事項を自動的に解消扱いにする。

答え・解説 正答：ウ

ア：改善提案の実施状況を確認するフォローアップが必要となる。

イ：監査人が業務執行を直接代行すると独立性を損なうおそれがある。

ウ：フォローアップは改善計画の実施状況と有効性を確認する活動である。

エ：未確認のまま解消扱いにするのは適切でない。

総合解説：監査は報告だけでなく、改善提案や改善計画が適切に実施されたかを確認するフォローアップまで含めて考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0114 1-4 マネジメント>システム監査・内部統制 | 難易度：応用

売上データを扱うシステムで、不正な売上計上のリスクを低減したい。内部統制として最も適切な職務分掌はどれか。

ア：売上入力、承認、入金消込、マスタ変更を一人に集中させる。

イ：承認者のIDとパスワードを入力担当者と共有する。

ウ：処理を高速化するため承認手続を廃止する。

エ：売上入力と承認を別担当者に分け、重要なマスタ変更にも独立した承認を要求する。

答え・解説 正答：エ

ア：相互牽制が働かず、不正や誤りを一人で完結できるリスクが高まる。

イ：認証情報共有は職務分掌と追跡可能性を損なう。

ウ：承認統制をなくすと不正・誤りの検知機会が減る。

エ：実行と承認を分離することで相互牽制が働き、不正・誤りの予防・発見に寄与する。

総合解説：内部統制では、業務プロセスを明確化し、職務分掌、承認、チェック体制などを組み合わせでリスクを低減する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0115 1-4 マネジメント>システム監査・内部統制 | 難易度：標準

次のうち、ITに係る全般統制の例として最も適切なものはどれか。

- ア：本番プログラムの変更について、申請・承認・テスト・移行の手続を組織全体で管理する。
- イ：受注入力時に数量が負数ならエラーにする入力チェックだけを設定する。
- ウ：請求金額と入金額の一致を個々の取引ごとに自動確認する。
- エ：売上伝票の合計と会計仕訳の合計を個別業務処理で照合する。

答え・解説 正答：ア

- ア：システム開発・変更、アクセス、運用などIT環境全体に関わる統制はIT全般統制に当たる。
 - イ：特定業務アプリケーションの入力チェックはIT業務処理統制の例である。
 - ウ：個別取引処理に組み込まれた統制であり、業務処理統制に近い。
 - エ：特定業務の処理結果照合であり、業務処理統制に近い。
- 総合解説：IT全般統制はIT環境の基盤的な信頼性を支え、IT業務処理統制は特定業務の入力・処理・出力の正確性などを支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0116 1-4 マネジメント>システム監査・内部統制 | 難易度：基礎

CSA（Control Self Assessment：統制自己評価）の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア：外部監査人だけが内部統制を評価し、業務部門は関与しない制度である。
- イ：業務を担う部門などが、自らのリスクや統制の有効性を自己評価し、改善に活用する考え方である。
- ウ：システム障害時にデータを自動復旧する仕組みである。
- エ：プロジェクトのコスト差異を算定するEVMの指標である。

答え・解説 正答：イ

- ア：CSAは外部監査だけに限定された制度ではない。
 - イ：自部門で統制を評価することでリスク認識と改善活動を促進する。
 - ウ：障害回復技術ではない。
 - エ：プロジェクト進捗・コスト管理の指標ではない。
- 総合解説：CSAは内部統制を現場自身が点検する手法であり、監査や経営者評価を補完しながら統制意識と改善を高める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0117 1-4 マネジメント>システム監査・内部統制 | 難易度：応用

ITガバナンスの説明として、最も適切なものはどれか。

ア：IT部門が経営方針とは無関係に技術選定を行う仕組みである。

イ：個々のプログラマが自由に開発規則を決める仕組みである。

ウ：取締役会等がステークホルダのニーズを踏まえ、IT戦略・方針とその実現活動を通じて組織価値や信頼向上を図る枠組みである。

エ：外部ベンダーに全ての経営責任を移転する仕組みである。

答え・解説 正答：ウ

ア：ITは経営戦略や組織目標と整合させて統治する必要がある。

イ：個人任せでは組織としての統治にならない。

ウ：ITの利活用を経営レベルで方向付け、価値・リスク・資源等を統治する考え方である。

エ：アウトソーシングしても組織のガバナンス責任は残る。

総合解説：ITガバナンスは単なるIT運用管理ではなく、経営レベルでITの方向性、価値、リスク、資源、説明責任を統治する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0118 1-4 マネジメント>システム監査・内部統制 | 難易度：標準

限られた監査資源で複数システムを監査するとき、監査計画の考え方として最も適切なものはどれか。

ア：全システムを重要度に関係なく同じ時間だけ監査する。

イ：監査対象部門が監査してほしくない領域は無条件で除外する。

ウ：前年に指摘がなかったシステムは将来も安全とみなし永続的に対象外とする。

エ：事業への影響、変更の大きさ、障害・不正リスクなどを評価し、重要性の高い領域へ監査資源を重点配分する。

答え・解説 正答：エ

ア：一律配分では高リスク領域への十分な監査ができない可能性がある。

イ：被監査部門の都合だけで範囲を決めると監査目的を損なう。

ウ：環境やリスクは変化するため、過去実績だけで永続除外できない。

エ：リスクと重要性に基づいて対象・頻度・手続を設計することで、限られた監査資源を有効に使える。

総合解説：監査計画では監査目的とリスク評価に基づき、対象範囲、時期、手続、資源を決定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0119 1-4 マネジメント>システム監査・内部統制 | 難易度：基礎

重要データの更新について監査可能性を高める仕組みとして、最も適切なものはどれか。

ア：誰が、いつ、どのデータを、どのように変更したかを追跡できるログを保全し、改ざん防止やアクセス制御も行う。

イ：更新履歴を毎日削除して保存容量を減らす。

ウ：全利用者で同一IDを共用し、操作主体を区別できなくする。

エ：重要処理の承認記録を残さない。

答え・解説 正答：ア

ア：追跡可能な監査証跡は、不正・誤りの調査や監査証拠として有用である。

イ：履歴を消すと事後検証が困難になる。

ウ：共用IDでは操作主体を特定できず説明責任が弱くなる。

エ：承認記録は統制の実施を示す重要な証拠になり得る。

総合解説：監査証跡は、重要な処理の経緯を後から再構成できるようにし、完全性と保存性も確保することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0120 1-4 マネジメント>システム監査・内部統制 | 難易度：標準

個人データを扱うシステムについて法令・社内規程への適合性を維持する活動として、最も適切なものはどれか。

ア：システム稼働時に一度だけ確認すれば、その後の法改正や運用変更は確認しない。

イ：適切な時期に遵守状況を評価し、法改正や業務変更、監査結果などを踏まえて必要な統制・手順を見直す。

ウ：利用者数が少なければ関連法令を確認しない。

エ：監査で問題が見つかって、業務が動いていれば改善しない。

答え・解説 正答：イ

ア：法令・環境・システムは変化するため継続的な評価が必要である。

イ：遵守状況を定期・随時に確認し、不備や変更に応じて改善することが適切である。

ウ：法令適用は利用者数だけで決まるものではない。

エ：指摘された不備を放置するとコンプライアンスリスクが残る。

総合解説：内部統制とコンプライアンスは一度構築して終わりではなく、環境変化を踏まえて評価・改善を繰り返す必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0121 1-5 ストラテジ・企業活動 > 経営戦略・企業活動 | 難易度：基礎

ある企業について「自社には大規模顧客基盤がある」「競合の新規参入が相次いでいる」と分析した。SWOT分析での分類として、最も適切なものはどれか。

ア：顧客基盤はOpportunity、競合参入はStrengthである。

イ：顧客基盤も競合参入もWeaknessである。

ウ：顧客基盤はStrength、競合参入はThreatである。

エ：顧客基盤はThreat、競合参入はOpportunityである。

答え・解説 正答：ウ

ア：顧客基盤は自社内部の強み、競合参入は外部環境の脅威と捉えるのが自然である。

イ：両者の内部・外部区分が異なる。

ウ：内部の有利な要因をStrength、外部の不利な要因をThreatとして整理する。

エ：分類が逆である。

総合解説：SWOTでは内部環境をStrength/Weakness、外部環境をOpportunity/Threatに分けて戦略立案へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0122 1-5 ストラテジ・企業活動 > 経営戦略・企業活動 | 難易度：標準

PPMで、市場成長率が高く、相対的市場シェアも高い事業の一般的な位置付けとして最も適切なものはどれか。

ア：負け犬（Dog）であり、低成長・低シェアの事業である。

イ：金のなる木（Cash Cow）であり、高成長・低シェアの事業である。

ウ：問題児（Question Mark）であり、低成長・高シェアの事業である。

エ：花形（Star）であり、高成長市場で高いシェアを持つ事業である。

答え・解説 正答：エ

ア：Dogは一般に低成長・低シェアである。

イ：Cash Cowは一般に低成長・高シェアである。

ウ：Question Markは一般に高成長・低シェアである。

エ：Starは高成長・高シェアで、成長投資を要する一方で将来の収益源になり得る。

総合解説：PPMは市場成長率と相対的市場シェアの二軸で事業ポートフォリオを捉え、資源配分の検討に使う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0123 1-5 ストラテジ・企業活動 > 経営戦略・企業活動 | 難易度：標準

業界全体を対象に、効率的な業務や規模の経済などによって競合より低いコスト構造を実現し、価格競争力を高める戦略として最も適切なものはどれか。

ア：コストリーダーシップ戦略

イ：差別化戦略

ウ：集中戦略

エ：多角化戦略

答え・解説 正答：ア

ア：コスト優位を競争力の源泉にする戦略である。

イ：差別化は独自価値による優位を狙う。

ウ：集中は特定市場・顧客層などに経営資源を絞る。

エ：多角化は事業領域を広げる全社戦略の考え方である。

総合解説：競争戦略では、コストリーダーシップ、差別化、集中など、競争優位の源泉と対象市場を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0124 1-5 ストラテジ・企業活動 > 経営戦略・企業活動 | 難易度：応用

新しいクラウドサービスのマーケティングで、市場を顧客特性ごとに分け、狙う顧客層を選び、その顧客に対して競合と異なる価値の位置付けを設計する。この一連の考え方として最も適切なものはどれか。

ア：PPMであり、事業を市場成長率と相対的シェアだけで分類する。

イ：STPであり、Segmentation、Targeting、Positioningの順に市場戦略を具体化する。

ウ：EVMであり、計画価値と出来高から進捗を評価する。

エ：EAであり、組織全体の業務・データ・システム・技術を体系化する。

答え・解説 正答：イ

ア：PPMは事業ポートフォリオ分析であり、顧客市場の細分化・選定・位置付けとは異なる。

イ：設問はSTPの典型的な流れである。

ウ：EVMはプロジェクト進捗・コスト管理手法である。

エ：EAは企業アーキテクチャの整理手法である。

総合解説：STPは「市場を分ける→狙う市場を決める→顧客から見た提供価値の位置を定める」というマーケティング戦略の基本枠組みである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0125 1-5 ストラテジ・企業活動 > 経営戦略・企業活動 | 難易度：標準

コアコンピタンスの説明として、最も適切なものはどれか。

ア：競合企業でも容易に模倣できる汎用的な業務手順を指す。

イ：短期的な値下げだけによって得た一時的な売上増を指す。

ウ：顧客価値の創出に寄与し、競合が容易に模倣しにくい、企業の中核的な能力・強みを指す。

エ：法令で全企業に義務付けられている内部統制手続を指す。

答え・解説 正答：ウ

ア：模倣容易性が高い能力は持続的競争優位の源泉になりにくい。

イ：価格施策の一時的成果は中核能力そのものではない。

ウ：組織固有の技術・ノウハウ・能力の組合せで競争優位の源泉となるものを指す。

エ：内部統制手続とは概念が異なる。

総合解説：コアコンピタンスは、企業が競争優位を築く上で核となる独自能力であり、資源配分や事業展開の判断にも関係する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0126 1-5 ストラテジ・企業活動 > 経営戦略・企業活動 | 難易度：基礎

バリューチェーン分析を行う主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア：全ての活動を外注して固定費をゼロにすることだけを目的とする。

イ：財務諸表を税務申告用に作成することだけを目的とする。

ウ：プロジェクトの最長経路を算出することを目的とする。

エ：企業活動を価値創出の連鎖として捉え、どの活動が顧客価値やコスト優位に寄与しているかを分析する。

答え・解説 正答：エ

ア：外注の是非は分析結果から検討し得るが、それだけが目的ではない。

イ：会計処理とは目的が異なる。

ウ：これはクリティカルパス分析の目的である。

エ：主活動・支援活動など価値創出の流れを分析し、競争優位の源泉や改善機会を見つける。

総合解説：バリューチェーン分析は企業の活動を分解し、差別化やコスト優位を生む箇所を把握するために用いる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0127 1-5 ストラテジ・企業活動 > 経営戦略・企業活動 | 難易度：応用

専門部門ごとの知識を維持しつつ、製品・プロジェクト横断で人材を活用するため、従業員が機能部門長とプロジェクト責任者の双方から指揮・調整を受ける組織形態を採用した。この特徴に最も近いものはどれか。

ア：マトリックス組織であり、専門性と横断連携を両立しやすい一方、指揮命令の調整が複雑になり得る。

イ：職能別組織であり、必ず指揮命令系統が二重になる。

ウ：事業部制組織であり、全ての専門部門を廃止することが必須である。

エ：ライン組織であり、複数の責任者による調整は起こらない。

答え・解説 正答：ア

ア：二つの軸を交差させて資源を共有する特徴がマトリックス組織に該当する。

イ：職能別組織では通常、職能軸を中心に指揮命令系統を構成する。

ウ：事業部制でも専門機能は存在し得るため、全廃が必須ではない。

エ：設問のような二重の調整関係は単純なライン組織の説明ではない。

総合解説：組織構造は専門性、迅速性、責任の明確さ、横断連携などのトレードオフを持つため、事業特性に応じて設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0128 1-5 ストラテジ・企業活動 > 経営戦略・企業活動 | 難易度：標準

EC事業で「年度末までに営業利益率10%を達成する」を最終目標とし、その先行管理のため「購入完了率」「リピート率」を毎月監視する。KGIとKPIの対応として最も適切なものはどれか。

ア：営業利益率10%も購入完了率も、全てKGIである。

イ：営業利益率10%をKGI、購入完了率やリピート率をKPIとして管理する。

ウ：営業利益率10%をKPI、購入完了率とリピート率をKGIとする。

エ：KGIとKPIは財務会計だけの用語なので、この事例では使えない。

答え・解説 正答：イ

ア：最終成果とその達成過程を区別できていない。

イ：KGIは最終的な目標達成指標、KPIはその達成に向けた重要なプロセス・業績指標として使う。

ウ：役割が逆である。

エ：経営・サービス・プロジェクト等の目標管理にも広く用いられる。

総合解説：指標は因果関係を意識して設計し、KPIの改善がKGIの達成につながるかを継続的に検証する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0129 1-5 ストラテジ・企業活動 > 経営戦略・企業活動 | 難易度：基礎

アウトソーシングの説明として、最も適切なものはどれか。

ア：外部委託すれば、委託元はサービス品質・情報セキュリティ・法令遵守に関する管理責任を全て失う。

イ：コア業務か否かに関係なく、全業務を外部委託することが必ず最適である。

ウ：外部の専門能力や規模の経済を活用できる一方、委託範囲、サービスレベル、情報管理、ベンダーロックイン等のリスクも管理する必要がある。

エ：外部委託は固定価格契約だけで実施しなければならない。

答え・解説 正答：ウ

ア：委託しても委託元のガバナンス・監督責任が残る領域がある。

イ：自社の競争力や機密性などを踏まえて対象を選ぶ必要がある。

ウ：便益とリスクの両方を評価し、契約・SLA・監督などで管理することが重要である。

エ：契約方式は状況に応じて選択する。

総合解説：アウトソーシングは経営資源の集中や専門性活用に有効だが、依存度・品質・セキュリティ・継続性などのリスク管理が不可欠である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0130 1-5 ストラテジ・企業活動 > 経営戦略・企業活動 | 難易度：標準

企業が法令遵守に加え、環境負荷、人権、地域社会、ガバナンスなどを経営上の重要課題として捉え、ステークホルダーへの説明責任を果たす取組の説明として最も適切なものはどれか。

ア：短期利益だけを最大化し、社会・環境への影響は考慮しない考え方である。

イ：IT部門だけの技術標準化活動を指す。

ウ：監査人が企業経営を直接代行する制度である。

エ：CSRやESGの観点を経営に組み込み、持続可能性と企業価値の両立を図る取組に当たる。

答え・解説 正答：エ

ア：CSR・ESGは短期利益だけでなく社会・環境・統治の側面も考慮する。

イ：技術標準化より広い経営・社会的責任の概念である。

ウ：監査は経営執行の代行ではない。

エ：企業の社会的責任やESG要因を意思決定に組み込む考え方に合致する。

総合解説：持続可能な経営では、財務面だけでなく環境・社会・ガバナンスのリスクと機会をステークホルダー視点で捉える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0131 1-5 ストラテジ・企業活動 > システム戦略・企画・調達 | 難易度：基礎

情報システム戦略の策定でAs-IsとTo-Beを用いる考え方として、最も適切なものはどれか。

ア：現行業務・システムの状態をAs-Isとして把握し、目指す業務・システム像をTo-Beとして定義し、その差を施策へ落とし込む。

イ：As-Isは将来像、To-Beは過去の障害履歴を意味する。

ウ：As-IsとTo-Beは会計上の資産と負債を表す。

エ：To-Beだけを決めれば現状分析は常に不要である。

答え・解説 正答：ア

ア：現状と目標像のギャップを可視化して変革施策を設計する考え方である。

イ：意味が逆であり、障害履歴の用語ではない。

ウ：会計用語ではない。

エ：現状の制約や課題を理解しないと実現可能な移行計画を立てにくい。

総合解説：情報システム戦略では、経営戦略との整合を前提に現状（As-Is）を分析し、あるべき姿（To-Be）と移行施策を定める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0132 1-5 ストラテジ・企業活動 > システム戦略・企画・調達 | 難易度：標準

エンタープライズアーキテクチャ（EA）を活用する目的として、最も適切なものはどれか。

ア：個別システムごとに独自技術を採用し、組織全体の整合性を考えないことを目的とする。

イ：組織全体の業務、データ、アプリケーション、技術などを体系的に整理し、現状と目標像の整合や標準化・変革を支援する。

ウ：プロジェクトの進捗率だけを計算する。

エ：売上高と変動費から損益分岐点だけを算出する。

答え・解説 正答：イ

ア：EAは全体最適や標準化を重視するため、個別最適の放置とは逆である。

イ：複数のアーキテクチャ層を関連付け、経営・業務とITの整合を図る。

ウ：EVM等のプロジェクト管理とは目的が異なる。

エ：会計計算ではない。

総合解説：EAは組織全体の構造を可視化し、重複システムの削減、標準化、将来アーキテクチャへの移行計画などに活用できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0133 1-5 ストラテジ・企業活動 > システム戦略・企画・調達 | 難易度：標準

複数のIT投資案件から優先順位を決める際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア：技術的に新しい案件を、事業効果やリスクを見ず必ず最優先にする。

イ：最も初期費用が高い案件を自動的に採択する。

ウ：経営戦略との整合、期待効果、費用、リスク、実現可能性、期間などを比較し、投資ポートフォリオとして優先順位を決める。

エ：各部門の希望順だけで決め、全社最適は考えない。

答え・解説 正答：ウ

ア：技術の新しさだけでは投資価値を判断できない。

イ：費用の大きさは効果を意味しない。

ウ：経営目標への貢献と定量・定性効果、リスクなどを総合評価する。

エ：部門最適だけでは重複投資や戦略不整合が起こり得る。

総合解説：IT投資は単なる設備購入ではなく、経営戦略を実現する施策として効果・コスト・リスクを比較し、継続的に評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0134 1-5 ストラテジ・企業活動 > システム戦略・企画・調達 | 難易度：応用

新システムの調達に先立ち、まず市場にどのような製品・サービスや実現方式があるか複数ベンダーから情報を集め、その後、具体的な要求と調達条件を示して提案を求めたい。最初に用いる文書として最も適切なものはどれか。

ア：RFP：具体的な提案を依頼する文書なので、市場情報収集より前に必ず詳細仕様を確定させる。

イ：RFQ：価格見積りだけを求める文書なので、技術選択肢の探索に最も適する。

ウ：SLA：サービス提供後のサービスレベルを顧客と合意する文書である。

エ：RFI：情報提供依頼書として、市場・製品・技術・ベンダー情報を収集する段階に適する。

答え・解説 正答：エ

ア：RFPは具体的な提案を求める段階で用いる。

イ：RFQは見積条件がある程度具体化した段階で価格等を求める用途が中心である。

ウ：SLAは調達前の市場調査文書ではない。

エ：RFIは調達の前段で情報を収集し、後続の要求・RFP作成の参考にする。

総合解説：調達では、情報収集のRFI、提案依頼のRFP、見積依頼のRFQなどを目的に応じて使い分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0135 1-5 ストラテジ・企業活動 > システム戦略・企画・調達 | 難易度：標準

ベンダー提案を「技術60%、価格40%」で100点満点換算する。A社は技術80点・価格70点、B社は技術70点・価格85点である。重み付き総合点の評価として最も適切なものはどれか。

ア：A社もB社も76点となり、この二指標だけでは同点なので、事前に定めた追加基準やタイブレーク方法で判断する。

イ：A社は150点、B社は155点なのでB社を採用する。

ウ：A社は75点、B社は77.5点なのでB社を採用する。

エ：重み付けを用いる場合、点数計算をせず担当者の主観だけで決める。

答え・解説 正答：ア

ア：A社=80×0.6+70×0.4=76、B社=70×0.6+85×0.4=76で同点である。

イ：重みを無視した単純合計であり評価方式と異なる。

ウ：重み付き計算が誤っている。

エ：事前に明確化した評価基準に基づく客観的比較が重要である。

総合解説：提案評価では評価項目・配点・重みを事前に定め、要求適合度やリスクも含めて透明性のある選定を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0136 1-5 ストラテジ・企業活動 > システム戦略・企画・調達 | 難易度：基礎

システム企画における要件定義の説明として、最も適切なものはどれか。

ア：プログラミング言語の文法規則だけを定める工程である。

イ：利害関係者のニーズや業務上の目的、必要な機能・品質・制約などを明確化し、合意可能な要求として整理する活動である。

ウ：運用開始後の障害ログだけを収集する活動である。

エ：調達先の財務諸表を作成する活動である。

答え・解説 正答：イ

ア：実装技術の選択だけに限定されない。

イ：何を実現すべきかを明確にし、後続の設計・調達・受入れの基準につなげる。

ウ：障害管理は運用段階の活動である。

エ：財務諸表作成とは異なる。

総合解説：要件定義では、機能要求だけでなく性能・可用性・セキュリティなどの非機能要求や業務制約も明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0137 1-5 ストラテジ・企業活動 > システム戦略・企画・調達 | 難易度：応用

システム開発の外部調達で契約締結時に確認すべき事項として、最も適切なものはどれか。

ア：納入システム、費用、納入時期、検収条件、発注者と受注者の役割・責任などは曖昧なままにする。

イ：口頭合意だけにし、変更条件や成果物の権利関係を文書化しない。

ウ：成果物、品質・受入れ条件、価格、納期、役割分担、変更手続、知的財産・秘密保持等を契約条件として明確にする。

エ：契約後の変更は一切発生しない前提とし、変更手続を定めない。

答え・解説 正答：ウ

ア：曖昧さは紛争や責任不明確化の原因になる。

イ：重要条件は契約書等で明確にし、追跡可能にする必要がある。

ウ：調達対象と責任・受入れ・変更・権利などを具体化することで双方の認識差を減らす。

エ：変更可能性を考慮した手続を定める方が管理しやすい。

総合解説：調達契約では、何を、いつまでに、どの品質で、誰の責任で提供するかを明確にし、変更・検収・権利・秘密保持なども管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0138 1-5 ストラテジ・企業活動 > システム戦略・企画・調達 | 難易度：標準

二つのクラウドサービスを比較する際、TCO（Total Cost of Ownership）の観点として最も適切なものはどれか。

ア：初期導入費だけを比較し、運用費・教育費・移行費・終了費用は無視する。

イ：月額料金が安い方を、利用量や運用負荷に関係なく必ず選ぶ。

ウ：ライセンス価格だけを比較し、人件費やサポート費は費用に含めない。

エ：導入から運用・保守、教育、移行、契約終了までライフサイクル全体で発生する費用を比較する。

答え・解説 正答：エ

ア：初期費だけでは長期的な経済性を判断できない。

イ：利用条件や追加費用を含めた総額で比較する必要がある。

ウ：間接費・運用費も所有・利用に伴う費用として評価対象になり得る。

エ：TCOは取得価格だけでなくライフサイクル全体の総費用を捉える考え方である。

総合解説：TCOを用いると、初期費用が安くても運用や移行に高い費用が掛かる選択肢を見落としにくくなる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0139 1-5 ストラテジ・企業活動 > システム戦略・企画・調達 | 難易度：基礎

全社のシステム化計画で複数案件の実施順を決める際、最も適切な考え方はどれか。

ア：経営戦略との整合性、緊急性、期待効果、依存関係、リスク、資源制約などを考慮して優先順位を定める。

イ：提案件数が多い部門の案件から自動的に実施する。

ウ：全案件を同時開始し、資源制約は考えない。

エ：最も新しい技術を使う案件を事業価値に関係なく優先する。

答え・解説 正答：ア

ア：全社最適の観点から戦略・効果・制約を統合して計画する必要がある。

イ：部門の声の大きさだけでは投資合理性を担保できない。

ウ：限られた人材・予算・依存関係を無視すると実行可能性が低下する。

エ：技術新規性は評価要素の一つにすぎない。

総合解説：システム化計画は情報システム戦略を具体的な案件群へ落とし込み、優先順位とロードマップを定める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0140 1-5 ストラテジ・企業活動 > システム戦略・企画・調達 | 難易度：標準

受注業務の改善で、既存の紙申請をそのまま電子フォームに置き換えるだけでなく、承認段階そのものを見直し、不要な処理を廃止し、部門横断で業務プロセスを根本的に再設計した。この取組に最も近いものはどれか。

ア：単純なデジタイゼーションだけであり、業務手順は変更していない。

イ：BPRであり、業務プロセスを抜本的に見直して成果を大きく改善することを狙う。

ウ：EVMであり、出来高からコスト差異を算定する。

エ：システム監査であり、監査人が業務を再設計する。

答え・解説 正答：イ

ア：設問では業務手順自体を抜本的に変更しているため、単なる媒体置換を超えている。

イ：BPRは既存の前提を見直し、業務プロセスを根本から再設計する考え方である。

ウ：EVMはプロジェクト管理手法である。

エ：監査は独立評価であり、業務執行の再設計そのものではない。

総合解説：IT導入の効果を高めるには、現行業務をそのまま自動化するだけでなく、必要に応じてBPRで業務自体を再設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0141 1-5 ストラテジ・企業活動 > 法務・標準・会計 | 難易度：基礎

ソフトウェアに関する著作権の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。

ア：アルゴリズムのアイデアそのものは、表現されていなくても著作権によって独占的に保護される。

イ：著作権は特許庁へ登録しなければ一切発生しない。

ウ：著作権は創作的な表現を保護するもので、発明・アイデアそのものの保護とは区別される。

エ：同じアイデアを他者が独自に異なる表現で作成しても、必ず著作権侵害になる。

答え・解説 正答：ウ

ア：著作権はアイデアそのものではなく、創作的な表現を保護する。

イ：著作権は原則として創作によって発生し、登録が権利発生の一般的要件ではない。

ウ：文化庁も、著作権が表現を保護し、発明やアイデアそのものは特許等と区別されることを説明している。

エ：独自創作で表現が異なる場合まで、アイデアの共通だけで当然に侵害となるわけではない。

総合解説：IT分野では、プログラムの具体的表現と、アルゴリズム・機能・アイデアそのものを区別して知的財産を考える必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0142 1-5 ストラテジ・企業活動 > 法務・標準・会計 | 難易度：標準

日本の産業財産権に含まれる権利の組合せとして、最も適切なものはどれか。

ア：著作権、営業秘密、商号、育成者権

イ：著作権、特許権、回路配置利用権、商号

ウ：特許権、著作権、意匠権、営業秘密

エ：特許権、実用新案権、意匠権、商標権

答え・解説 正答：エ

ア：これらは知的財産に関係するが、産業財産権の四権の組合せではない。

イ：著作権や回路配置利用権、商号は産業財産権四権に含まれない。

ウ：著作権と営業秘密は産業財産権四権ではない。

エ：特許庁が所管する特許権、実用新案権、意匠権、商標権を産業財産権という。

総合解説：知的財産権は広い概念であり、その中の産業財産権は特許・実用新案・意匠・商標の四つである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0143 1-5 ストラテジ・企業活動 > 法務・標準・会計 | 難易度：標準

不正競争防止法上の「営業秘密」として保護されるための三要件の組合せとして、最も適切なものはどれか。

- ア：秘密管理性、有用性、非公知性
- イ：新規性、進歩性、産業上の利用可能性
- ウ：創作性、公表性、登録性
- エ：識別力、周知性、使用実績

答え・解説 正答：ア

ア：経済産業省は営業秘密の要件を、秘密管理性・有用性・非公知性の三つとして示している。
イ：特許発明の審査に関連する考え方であり、営業秘密の三要件ではない。
ウ：著作権等とも一致しない要件である。
エ：商標・不正競争の一部論点に関連し得るが、営業秘密の三要件ではない。
総合解説：営業秘密として法的保護を受けるには、単に「社外秘」と呼ぶだけでなく、秘密として管理され、事業に有用で、公然と知られていないことが必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0144 1-5 ストラテジ・企業活動 > 法務・標準・会計 | 難易度：応用

個人データを扱うシステムで、担当者ごとにアクセス可能なデータベースを限定し、正当なアクセス権を持つ利用者をID等で識別・認証する対策を導入した。個人情報保護委員会のガイドライン上、主としてどの安全管理措置に当たるか。

- ア：人的安全管理措置だけに当たり、アクセス制御は含まれない。
- イ：技術的安全管理措置に当たり、アクセス制御やアクセス者の識別・認証の例である。
- ウ：物理的安全管理措置だけに当たり、入退室管理と同じ分類に限定される。
- エ：組織的安全管理措置だけに当たり、技術的対策ではない。

答え・解説 正答：イ

ア：従業者教育などは人的安全管理措置だが、設問のアクセス制御・認証は技術的措置である。
イ：ガイドラインは技術的安全管理措置としてアクセス制御、アクセス者の識別と認証等を示している。
ウ：入退室や機器盗難防止などは物理的措置の例である。
エ：組織体制整備などは組織的措置であり、設問の中心は技術的措置である。
総合解説：安全管理措置は組織的・人的・物理的・技術的など複数の側面を組み合わせ、リスクに応じて設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0145 1-5 ストラテジ・企業活動 > 法務・標準・会計 | 難易度：基礎

標準化に関する説明として、最も適切なものはどれか。

ア：ISOは日本国内だけの国家規格を制定する組織であり、国際規格は扱わない。

イ：JISは特定企業が独自に決めたデファクトスタンダードだけを指す。

ウ：ISOは国際標準化機構、IECは電気・電子分野を中心とする国際標準化機関であり、JISは日本の国家規格である。

エ：IECは会計基準だけを制定する国際機関である。

答え・解説 正答：ウ

ア：ISOは国際標準化を担う組織である。

イ：JISは日本産業規格であり、単一企業の独自仕様を意味しない。

ウ：国際規格と日本の国家規格の基本的な位置付けを正しく示している。

エ：IECは電気・電子技術分野の国際標準化を担う。

総合解説：標準化では、国際規格と国内規格、標準化団体の役割を区別し、相互運用性・品質・安全性などの確保に活用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0146 1-5 ストラテジ・企業活動 > 法務・標準・会計 | 難易度：標準

標準の成立過程に関する説明として、最も適切なものはどれか。

ア：デファクトスタンダードは、法律によって必ず使用を義務付けられた規格だけを指す。

イ：デジュールスタンダードは、市場競争だけで事実上普及した民間製品仕様だけを指す。

ウ：デファクトとデジュールは同義であり、成立過程に違いはない。

エ：デジュール標準は公的・標準化機関の正式な手続を経て制定され、デファクト標準は市場で広く採用され事実上の標準となったものを指す。

答え・解説 正答：エ

ア：デファクトは市場での普及によって事実上の標準となる概念で、法的義務が必須ではない。

イ：正式な標準化手続による標準はデジュール側である。

ウ：成立経路の違いを区別する用語である。

エ：正式制定と市場普及という典型的な違いを示している。

総合解説：標準は成立過程によってデジュール、デファクトなどに分類される。実務では相互運用性や市場支配力への影響も考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0147 1-5 ストラテジ・企業活動 > 法務・標準・会計 | 難易度：応用

財務諸表に関する説明として、最も適切なものはどれか。

ア：貸借対照表は一定時点の資産・負債・純資産を示し、損益計算書は一定期間の収益・費用と利益を示す。

イ：貸借対照表は一定期間の売上だけを示し、損益計算書は一定時点の現金残高だけを示す。

ウ：貸借対照表と損益計算書は同一内容であり、名称だけが異なる。

エ：損益計算書は資産と負債だけを記載し、収益と費用は扱わない。

答え・解説 正答：ア

ア：貸借対照表はストック情報、損益計算書は期間損益というフロー情報を示す。

イ：役割が誤っており、売上・現金だけに限定されない。

ウ：異なる目的・構成を持つ財務諸表である。

エ：損益計算書は収益・費用を通じて利益を示す。

総合解説：財務諸表の役割を区別すると、企業の財政状態と経営成績を別の視点から評価できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0148 1-5 ストラテジ・企業活動 > 法務・標準・会計 | 難易度：標準

当期純利益が12百万円、期中平均の自己資本が80百万円である。ROEを「当期純利益 ÷ 自己資本 × 100」で計算すると、最も適切な値はどれか。

ア：6.7%。自己資本を純利益で割っている。

イ：15%。12 ÷ 80 × 100で求める。

ウ：68%。80-12を百分率とした値である。

エ：92%。1-12 ÷ 80で求める。

答え・解説 正答：イ

ア：式の分子・分母が逆である。

イ：12/80=0.15なので15%である。

ウ：ROEは自己資本から利益を引く計算ではない。

エ：1から利益率を引く指標ではない。

総合解説：ROEは自己資本に対してどれだけ利益を生み出したかを見る収益性指標である。比較時は利益・自己資本の定義や期間をそろえる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0149 1-5 ストラテジ・企業活動 > 法務・標準・会計 | 難易度：標準

固定費が300万円、変動費率が60%の事業がある。売上高をSとすると、損益分岐点売上高として最も適切なものはどれか。

ア：500万円。固定費を変動費率60%で割った値である。

イ：600万円。固定費の2倍をそのまま売上高とした値である。

ウ：750万円。限界利益率40%なので $300 \div 0.4$ で求める。

エ：1,200万円。固定費を25%で割った値である。

答え・解説 正答：ウ

ア：損益分岐点は固定費÷限界利益率で求めるため、変動費率で直接割らない。

イ：固定費の倍という根拠はない。

ウ：限界利益率 $=1-0.6=0.4$ であり、 $300/0.4=750$ 万円となる。

エ：限界利益率40%を用いるので25%ではない。

総合解説：損益分岐点分析では、売上高から変動費を差し引いた限界利益が固定費と等しくなる売上高を求める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0150 1-5 ストラテジ・企業活動 > 法務・標準・会計 | 難易度：基礎

流動資産が500百万円、流動負債が250百万円である。流動比率を「流動資産÷流動負債×100」で計算すると、最も適切な値はどれか。

ア：50%。250÷500で求める。

イ：100%。資産と負債の差を比率にしている。

ウ：150%。500-250を500で割った値を加算している。

エ：200%。500÷250×100で求める。

答え・解説 正答：エ

ア：分子と分母が逆である。

イ：流動比率は差額ではなく比率を用いる。

ウ：設問の公式に基づく計算ではない。

エ：500/250=2なので200%となる。

総合解説：流動比率は短期的な支払能力を見る代表的な安全性指標であるが、業種や資産の質も考慮して評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02